

OKURA

2021年12月期 決算説明資料



大倉工業株式会社

2022年2月24日

CONTENTS



01. 当社の概要
02. 2021年12月期決算の概要
03. 経営ビジョンNext10(2030)
04. 中期経営計画(2024)
05. 2022年12月期業績予想
06. 参考資料

経営理念

経営ビジョン
Next10(2030)
次の10年に向けた「ありたい姿」

サステナビリティ

持続的な成長、中長期的な企業価値向上
サステナビリティ基本方針、基本原則
環境方針 品質方針 コーポレートガバナンス基本方針

事業

社会と共生する事業活動
中期経営計画 年度事業計画

ESG

事業を通じて実現
ESG経営

社訓

大倉工業倫理綱領

当社の概要

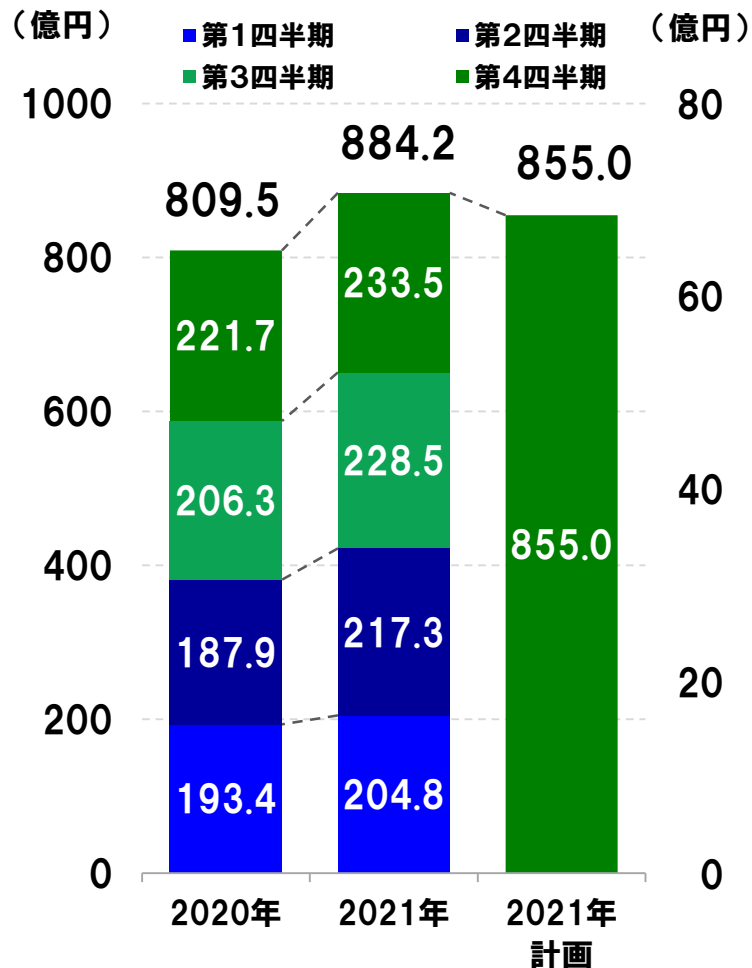
1

証券コード	4221(東証1部)	業種	化学
社名	大倉工業株式会社 Okura Industrial Co.,Ltd.		
本社所在地	香川県丸亀市中津町1515番地		
代表者	代表取締役社長執行役員 神田 進		
設立	1947年7月11日		
資本金	86億1千9百万円		
従業員数	1,966名(連結)、1,043名(単体)		
売上高	884億円(2021年12月期、連結)		
事業所	営業拠点 6拠点、製造拠点 5拠点		
子会社	連結子会社〔国内:12社、海外:1社〕		
	(株)関西オークラ、	(株)関東オークラ、	(株)九州オークラ、
	(株)埼玉オークラ、	(株)オークラプロダクツ、	オークラホテル(株)、
	(株)オークラプレカットシステム、	オークラ情報システム(株)、	(株)オークラハウス、
	(株)ユニオン・グラビア、	(株)オークラパック香川、	(株)カントウ、
	無錫大倉包装材料有限公司		
	非連結子会社 1社 大倉産業(株)		
	【2021年12月末現在】		

2021年12月期決算の概要

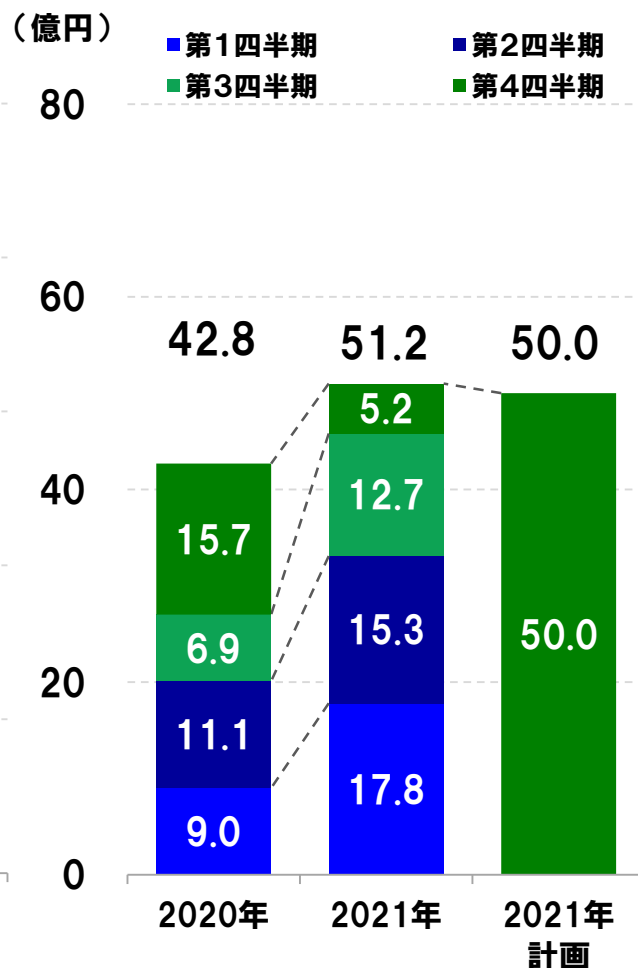
2

【売上高】



前年比 +9.2%

【営業利益】



前年比 +19.5%

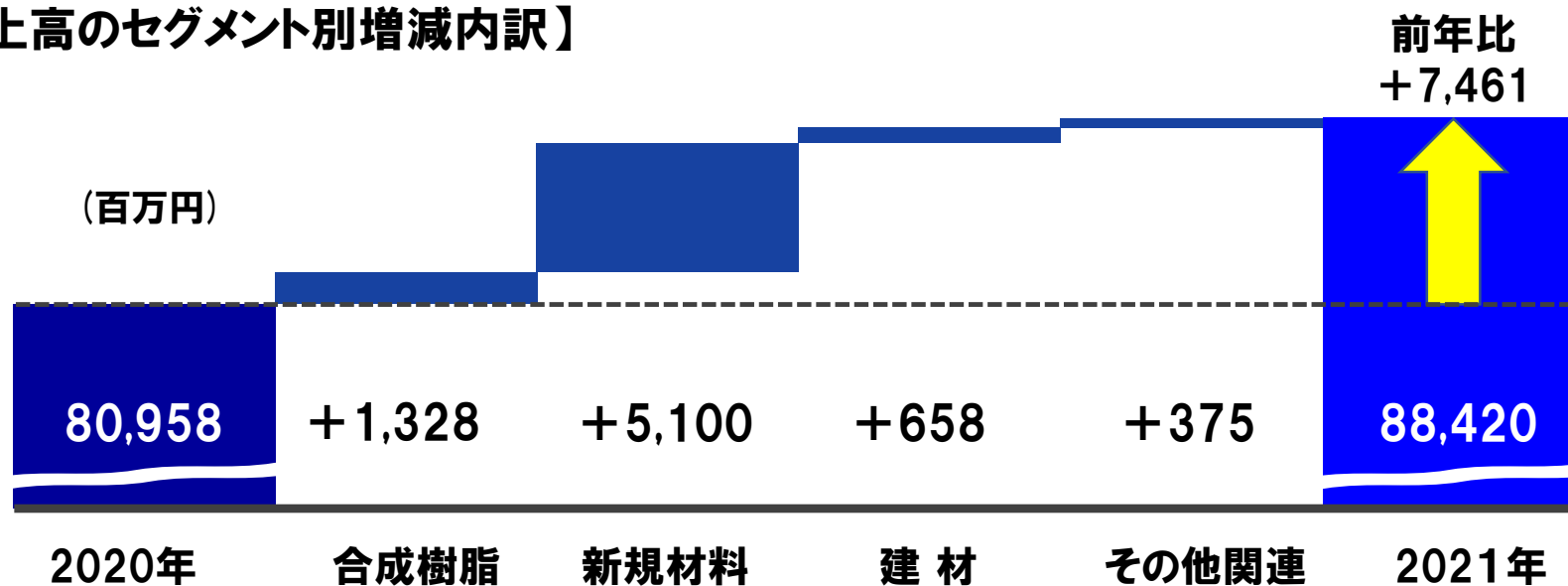
- 新規材料事業で光学製品の受注が好調。
- 合成樹脂事業で工業用フィルム・農業用フィルムの販売数量が増加。
- 売上高の増加と生産性の向上により、営業利益は増加。
- 原材料価格の上昇により、営業利益は下期より減少傾向。

※2021年計画は、2021年7月27日に公表しました通期の連結業績予想数値です。

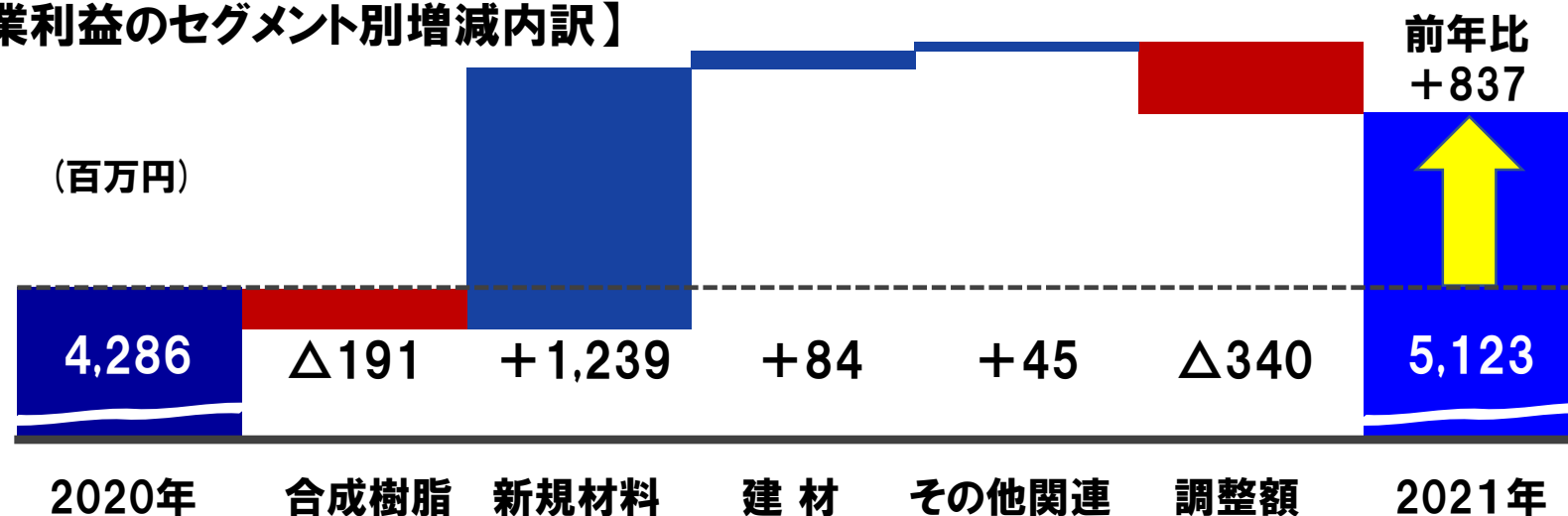
<p>合成樹脂事業</p>	<p>需要増 ↑</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工業用途は回復 ・内食用途は堅調 ・環境貢献製品が増加 	<p>需要減 ↓</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外食用途は低迷 ・一般包装用フィルムは需要減
<p>新規材料事業</p>	<p>需要増 ↑</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大型液晶パネル向け光学フィルム・モバイル向け光学フィルム好調 ・OA機器用途は回復 	<p>需要減 ↓</p> <ul style="list-style-type: none"> ・半導体不足による自動車減産の影響で一部製品苦戦
<p>建材事業</p>	<p>需要増 ↑</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リフォーム需要が堅調 ・東南アジアのロックダウンの影響で輸入基材代替品が増加 	<p>需要減 ↓</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ウッドショックによる木材調達難 ・新築向けフローア製品は低調
<p>その他関連事業</p>		<p>需要減 ↓</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホテル事業は宿泊、宴会が引き続き低迷

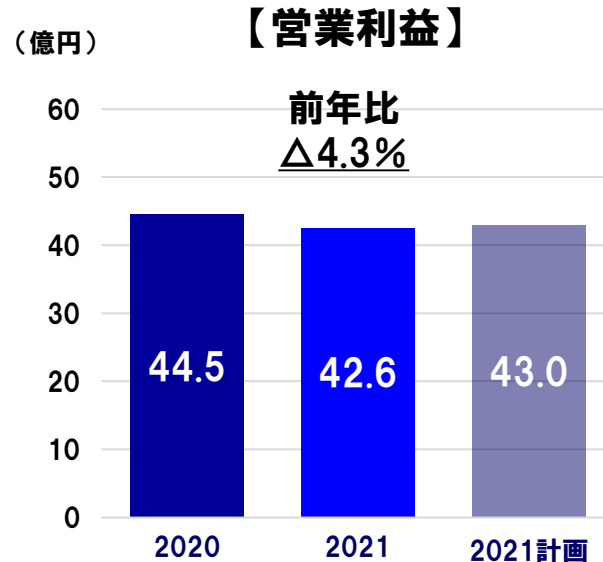
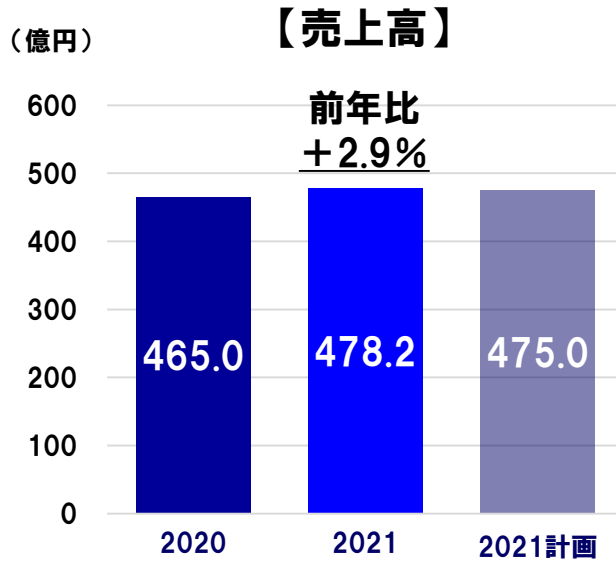
02-2 セグメント別売上高・営業利益増減

【売上高のセグメント別増減内訳】



【営業利益のセグメント別増減内訳】





- ▶ プリント基盤用フィルムの需要が回復。LIB用タブテープが増加。
- ▶ 農業用フィルムの拡販及び直需活動により販売が増加。
- ▶ レジ袋メーカーの参入等、競争激化により、ごみ袋の販売が減少。
- ▶ 3Q以降の原材料価格上昇に対し、製品価格修正が遅れ、利益率が低下。

BU別売上高	2021年 (百万円)	前年比
パッケージングBU	18,183	+1.7%
シュリンクフィルム	9,461	+4.3%
軟包材	6,946	Δ3.1%
リキッドパック	1,774	+8.8%
産業機能材BU	6,178	+13.0%
一般包材BU	17,646	Δ1.9%
アグリマテリアルBU	4,840	+7.9%
その他	980	+41.3%
合計	47,829	+2.9%

リチウムイオン電池

タブリード

タブテープ

ドライフィルムレジスト用カバーフィルム

ベースフィルム

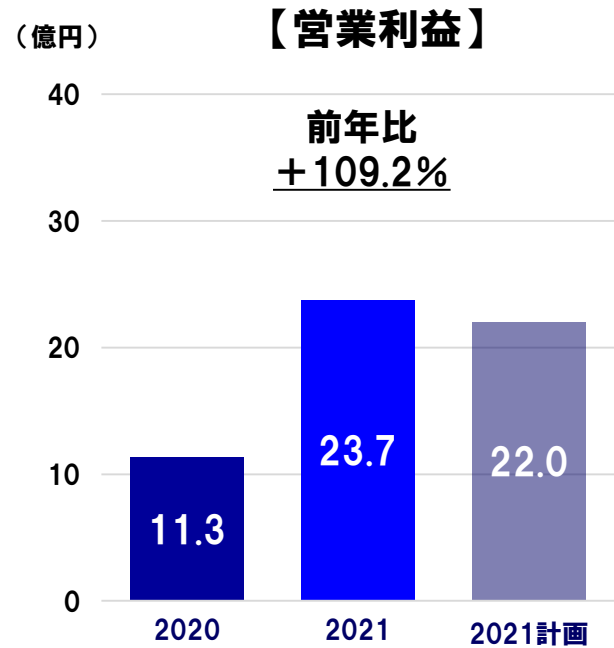
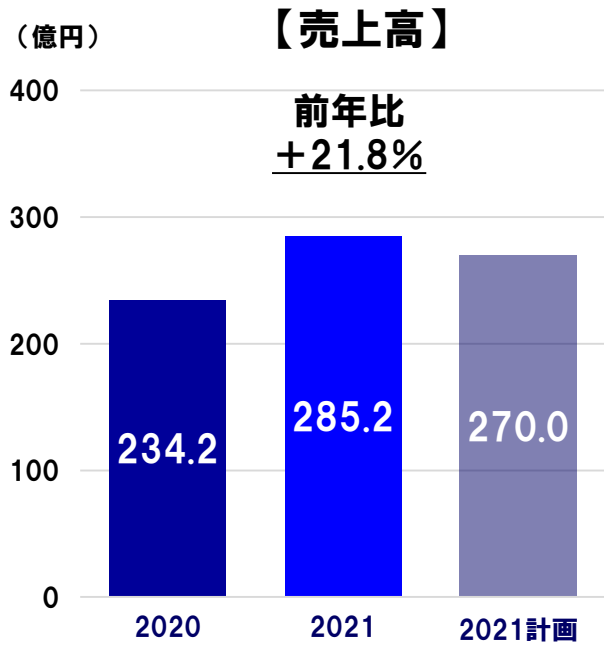
感光剤

基板

プリント基盤用フィルム

エコローム® FC

夢がある。技術がある。未来ができる。



▶ **機能材料**
OA機器用部材が回復。
モーター関連を中心に接着剤が増加。

▶ **光学フィルム**
大型液晶パネル向け及びモバイル向け光学フィルムが引き続き好調。

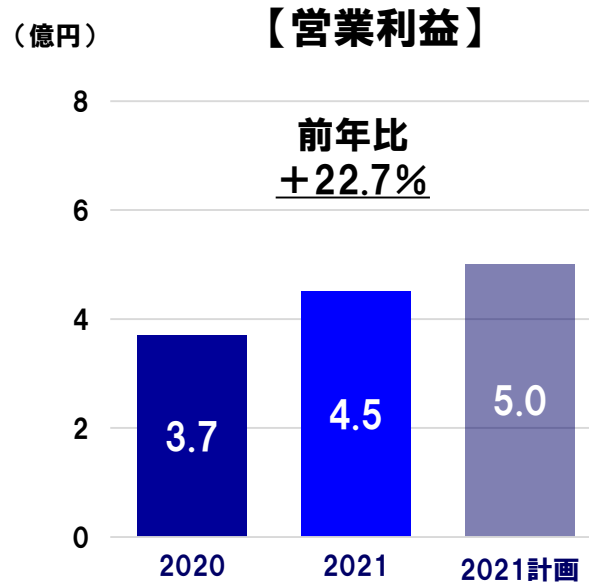
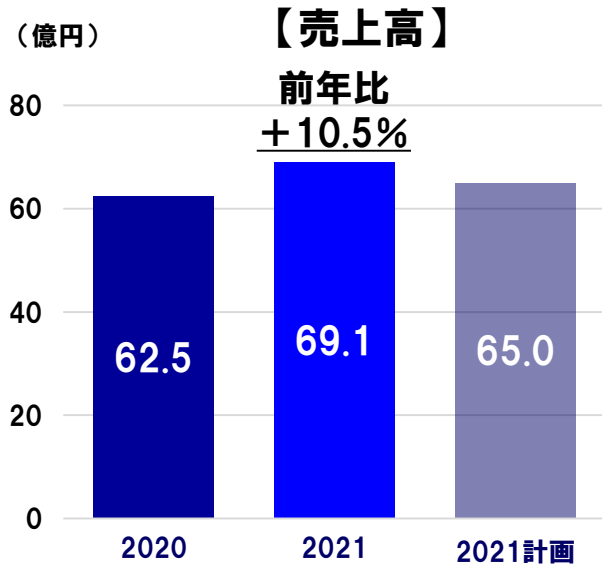
BU別売上高		2021年 (百万円)	前年比
機 能 材 料	B U	2,667	+22.8%
電 子 材 料	B U	16,629	+32.4%
光 学 材 料	B U	6,974	+11.2%
商 品	他	2,253	△6.7%
合 計		28,524	+21.8%



無溶剤型
アクリル接着剤

光学フィルム





▶ **パーティクルボード素板、住環境製品**
リフォーム需要の増加により、キッチン等の水回り関連用途が好調を維持。東南アジアのロックダウンにより、輸入代替品の販売が増加。

▶ **フロア関連製品**
新設住宅着工戸数は微増だが、パーティクルボードフロアは低調。

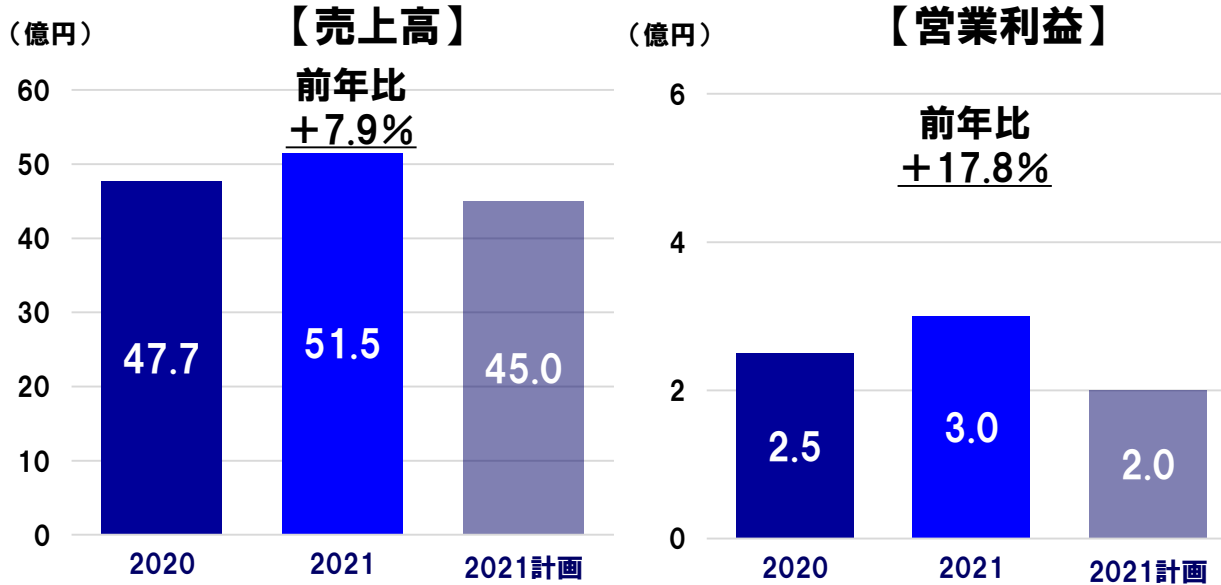


パーティクルボード

住宅設備機器



製品別売上高	2021年 (百万円)	前年比
パーティクルボード素板	3,499	+10.9%
パーティクルボードフロア	1,745	△2.6%
住環境(建装材、商品を含む)	1,667	+27.6%
(内、パーティクルボード基材加工品)	(1,160)	(+21.3%)
合 計	6,912	+10.5%



事業別売上高	2021年 (百万円)	前年比
ホテル事業	323	△36.5%
情報処理事業	1,318	+10.1%
住宅事業	964	+13.3%
プレカット事業	3,218	+21.2%
賃貸事業	649	△11.5%
消去・組替	△1,320	-
合計	5,154	+7.9%

- ▶ **ホテル事業**
コロナ影響により、宿泊や宴会の低迷が続く。岡山ビジネスホテルの土地建物を売却。
- ▶ **情報処理事業**
調剤薬局向け調剤鑑査システムの販売が堅調。
- ▶ **住宅・プレカット事業**
市場全体ではウッドショックの影響を受けるも資材確保でき売上は増加。



(億円)

	2020年	2021年	増減額	増減率	主な内訳
売上高	809.5	884.2	+74.6	+9.2%	
営業利益	42.8	51.2	+8.3	+19.5%	
営業外収益	4.0	5.4	+1.4		
営業外費用	1.8	1.4	△0.4		
経常利益	45.0	55.3	+10.2	+22.7%	
特別利益	0.1	3.4	+3.3		(当期) 固定資産売却益3.3
特別損失	4.3	9.4	+5.0		(前期) 投資有価証券評価損2.9 (当期) 減損損失7.5
税金等調整前 当期純利益	40.8	49.3	+8.5	+20.9%	
法人税等	12.1	15.2	+3.0		
親会社株主に帰属する 当期純利益	28.6	34.1	+5.5	+19.2%	
(1株当たり当期純利益)	(240.41円)	(286.49円)			

02-3 連結貸借対照表



(億円)

	2020年期末	2021年期末	増減額	主な内訳
(資産の部)				
流動資産	431.8	469.5	+37.7	たな卸資産 +18.7
固定資産	394.6	389.1	△5.5	売上債権 +13.5
資産合計	826.5	858.6	+32.1	
(負債の部)				
流動負債	274.9	279.7	+4.7	借入金 △23.1 未払金 +10.6
固定負債	60.5	53.7	△6.8	仕入債務 +9.8
負債合計	335.5	333.4	△2.1	
(純資産の部)				
純資産合計	490.9	525.2	+34.2	利益剰余金 +27.0 有価証券評価差額金 +5.4
(自己資本比率)	(59.4%)	(61.1%)		
借入金残高	56.3	33.1	△23.1	

(億円)

	2020年	2021年
現金及び現金同等物 期首残高	76.0	91.7
営業活動による キャッシュ・フロー	92.9	63.4
投資活動による キャッシュ・フロー	△43.5	△27.6
財務活動による キャッシュ・フロー	△33.4	△30.4
現金及び現金同等物 期末残高	91.7	97.6

▶ 営業キャッシュ・フロー

税金等調整前当期純利益

+49.3億円

減価償却費 +45.0億円

たな卸資産の増加△18.6億円

▶ 投資キャッシュ・フロー

製造装置等の有形固定資産の
取得による資金の減少

▶ 財務キャッシュ・フロー

借入金の減少 △23.2億円

配当金の支払 △7.1億円

経営ビジョン Next10 (2030)

3

1. 理念体系・経営ビジョン
2. 事業ポートフォリオ
3. 経営指標
4. サステナビリティ推進

03-1 理念体系・経営ビジョン



**要素技術を通じて、新たな価値を創造し、
お客様から選ばれるソリューションパートナー**
～ お客様の価値向上と社会課題の解決に貢献し、
事業を通じて、社会・環境価値を創出する ～

03-1 経営ビジョン「Next10 (2030)」

[注力する領域]

人々の安心で快適な生活を支える事業

食・アグリ、住空間、生活用品、ヘルスケア、医療

環境・エネルギー負荷を軽減する事業

サステナブル材料、減量化、リサイクル、省エネ

情報通信に関する事業

高速通信、フレキシブルデバイス、モビリティ

Next10 (2030)

「 次の10年に向けた「ありたい姿」 「要素技術を通じて、新たな価値を創造し、お客様から選ばれるソリューションパートナー」

お客様の価値向上と社会課題の解決に貢献し、事業を通じて、社会・環境価値を創出する

社会から信頼される企業

技術優位な企業集団

創立75周年

2018

2021

2024

2027

2030

STAGE1

STAGE2

STAGE3

STAGE4

【土台作り&基盤強化】

【事業領域拡大】

【経営ビジョン実現】

事業ポートフォリオ

03-2 目指す事業ポートフォリオ

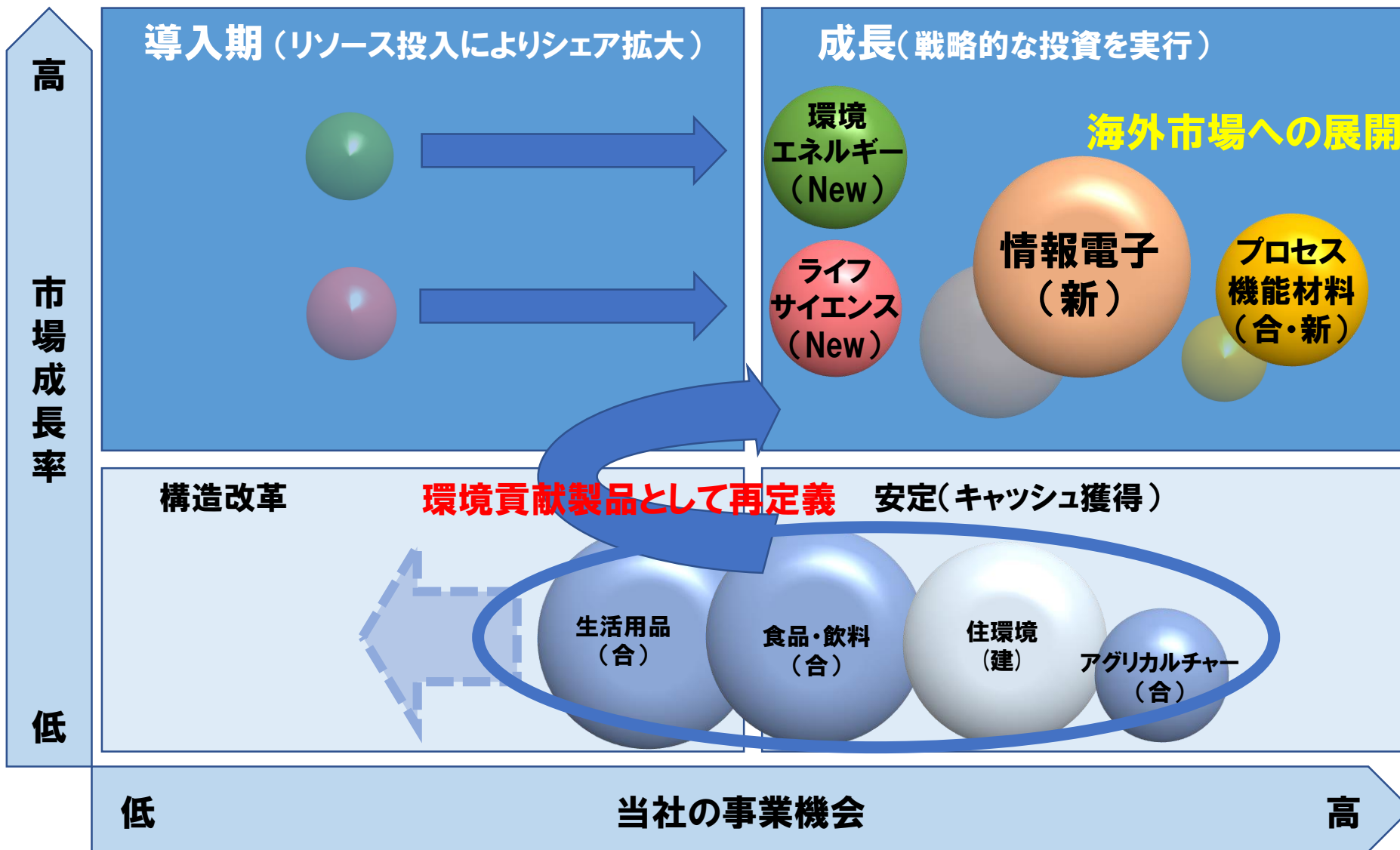


夢がある。技術がある。未来ができる。

03-2 注力領域における当社の強み

	合成	新規	建材	強み
<p>生活サポート 人々の安心で快適な生活を支える事業</p> <p>ライフサイエンス 食品・飲料 住環境 生活用品 アグリカルチャー</p>	●	●	●	多種多様な分野での顧客とのネットワーク
<p>情報電子 情報通信に関する事業</p> <p>情報電子</p>		●		光学フィルム加工メーカーのフロントランナー
<p>プロセス機能材料 製品製造に役立つ部材で貢献する事業</p> <p>プロセス機能材料</p>	●	●		商品開発力・成型技術のノウハウ蓄積
<p>環境・エネルギー 環境・エネルギー負荷を軽減する事業</p> <p>環境エネルギー</p>	●	●	●	ユーザー・商社・流通とシステム連携

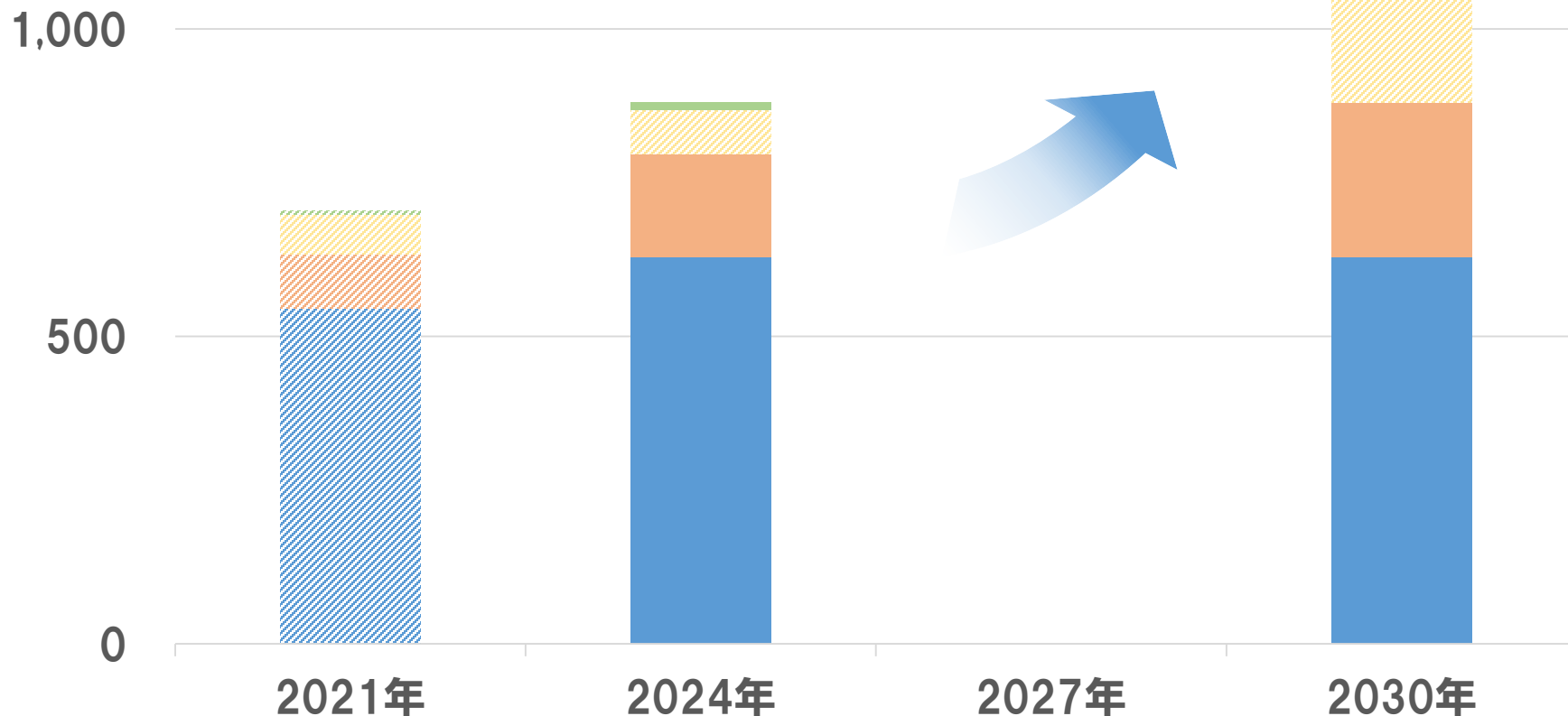
事業ポートフォリオ 03-2 事業ポートフォリオの深化



03-3 売上高【注力分野別】

売上高 1,200億円
営業利益 100億円

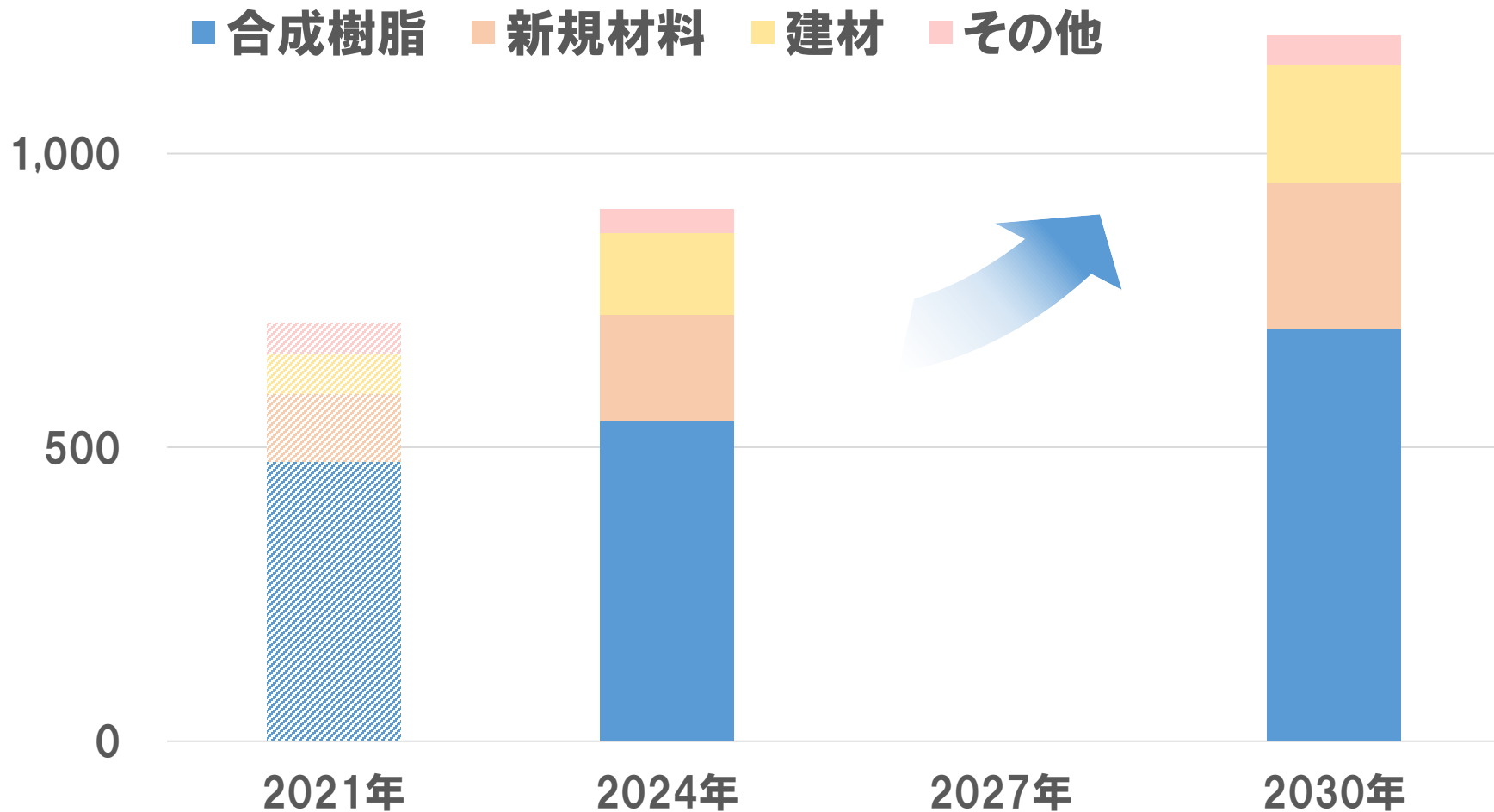
- 生活サポート
- 情報電子
- プロセス機能材料
- 環境・エネルギー



※収益認識に関する会計基準を適用した場合の売上高:712億円(2021年)

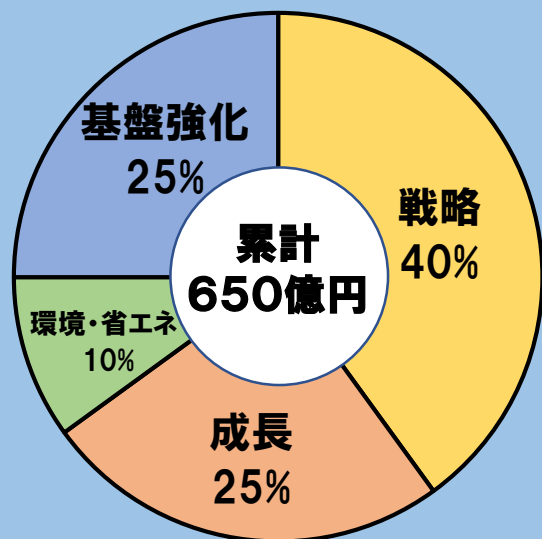
03-3 売上高【事業セグメント別】

売上高	1,200億円
営業利益	100億円



※収益認識に関する会計基準を適用した場合の売上高:712億円(2021年)

ポートフォリオの深化に向けた積極的な投資



戦略投資 (M&A含む) 260億円

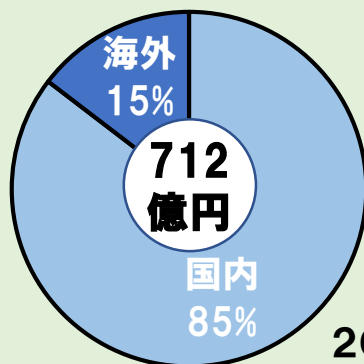
□ 高機能フィルム開発投資

□ 海外・M&A投資

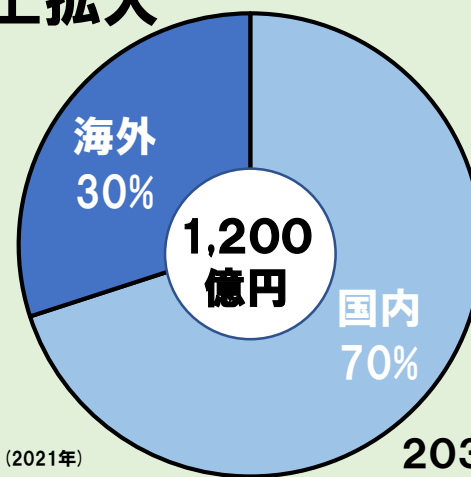
□ 経営基盤強化投資
(DX、人財投資など)

環境 省エネ投資 65億円

プロセス機能材料・情報電子分野の海外向け売上拡大



- ◆ 世界へキーパーツを発信
- ◆ 地産地消の海外拠点拡充



2021年 ※収益認識に関する会計基準を適用した場合の売上高:712億円(2021年)

2030年

サステナビリティ推進

03-4 理念体系【サステナビリティ】



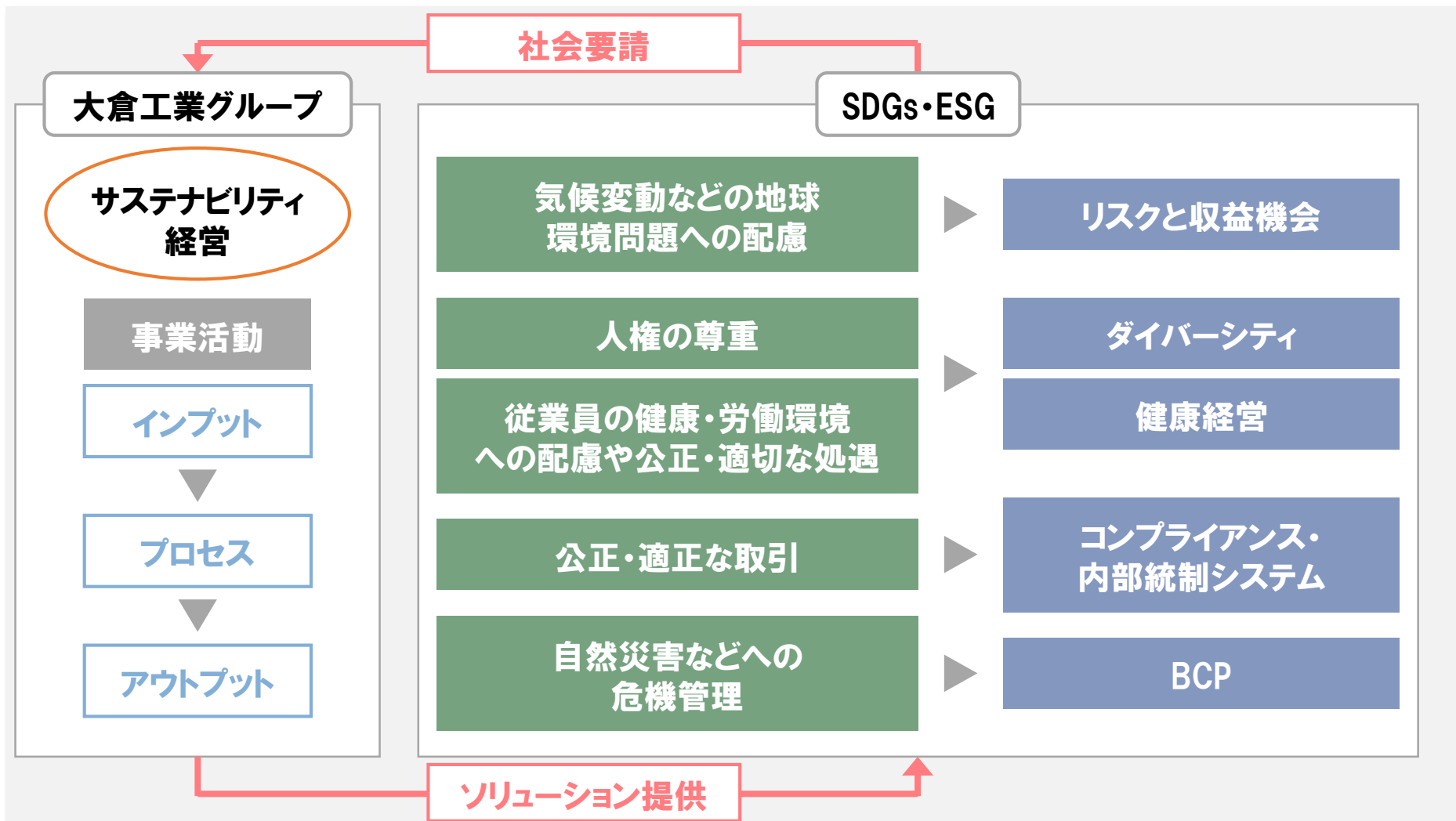
サステナビリティ基本方針

「社会から信頼される企業」であり続けるために、事業を通じて、社会との共生を念頭に企業の成長を目指す

サステナビリティ基本原則

1. 事業とESGの両立
2. 地球環境の保全
3. 法令順守・人権尊重と労働環境の配慮
4. 情報開示と対話

03-4 大倉工業グループのサステナビリティへの取り組み



脱炭素経営（気候変動対策）の推進

- 自社（工場及びオフィス）からのCO₂排出量削減
- 物流（出荷）の効率化とCO₂排出量削減



資源循環対策の更なる推進

- 工場廃棄物の大幅削減
- 海洋プラスチックの削減
使用後の廃資材等の回収、再資源化の促進



環境貢献製品の創出と拡大

- 環境貢献製品創出の仕組み化と中長期目標設定
- 機能性に優れた製品の開発及び販売



CSR調達の推進

- 人権等に配慮した原材料調達の仕組み構築と運用
- 環境に配慮した原材料調達（グリーン調達）の仕組み構築と運用



DX推進による競争優位性の確保

- 新しいデジタル技術の導入による生産性向上と業務改革
- 営業活動及びマーケティングの高度化
- より高品質で安全性の高い製品の追求



イノベーション創出に向けた研究開発

- 新規事業の創出につながるマーケティングの強化
- オープンイノベーションの積極的な活用



企業の信頼性・透明性の向上

- ESG情報の積極的な開示
- ステークホルダーとの対話促進
- 内部統制・コンプライアンス体制の整備
- リスクの洗い出しとBCP（事業継続計画）のブラッシュアップ



汚染防止の徹底

- 有害化学物質の適切な管理
- 水資源の使用量削減と適切な管理



地域社会との共生

- 社会奉仕活動、地域環境保護活動の推進
- 地域課題解決ビジネス、地域活性化ビジネスへの参画
- 地域資源の積極的な利用



働きがいのある職場環境の整備

- ダイバーシティ経営の実現
- 働き方改革による生産性向上とワークライフバランスの実現
- やりがいのある人事評価制度構築と人材育成制度の充実
- 労働安全衛生の強化



サステナビリティ推進 03-4 ESGへの取り組み



Environment : 環境



脱炭素経営（気候変動対策）の推進

- 省エネ設備、太陽光発電の導入
- CO₂フリー電力の調達、
新たなスキームによる再生可能エネルギーの利用



資源循環対策の更なる推進

- 市場からの廃プラ回収システムの構築
廃プラ回収の推進

環境貢献製品の創出と拡大

- 製品資源の減容化、
生産プロセスのエネルギー効率化
- 環境や社会の問題解決に寄与する
新たな製品の開発

（代表例）



エコクラブ



無溶剤型
アクリル系接着剤



オークラボード



「気候関連財務情報開示タスクフォース(TCFD)」
提言に沿った積極的な情報開示

2030

CO₂排出量: 50%以上削減
市場から回収した廃プラの再生利用: 30,000t 以上
生活サポート群環境貢献製品売上高比率: 100%

Social : 社会



働きがいのある職場環境の整備

- 女性活躍職場の推進
- 人事評価制度の再構築
- 健康経営の推進

地域社会との共生

- 社会奉仕活動の拡大
- 地域文化/スポーツイベントへの参画



DX推進による競争優位性の確保

- 品質管理強化と生産性向上

2030

ダイバーシティ経営の実現
積極的に地域社会活動・イベントへ参加する
文化の構築
新しい顧客価値の創出
ビジネスモデルの転換

Governance : ガバナンス



企業の信頼性・透明性の向上

- 「コーポレートガバナンスの強化」
- 取締役会等の多様化と実効性の開示
- 内部統制・コンプライアンス体制の整備

「リスクマネジメントの強化」

- BCP(大規模な自然災害対応)のブラッシュアップ
- 情報セキュリティの強化

2030

経営意思決定の透明性向上・迅速化
ステークホルダーと対話の推進

夢がある。技術がある。未来ができる。

中期経営計画 (2024)

4



1. 前中期経営計画の振り返り

2. 中期経営計画(2024)

04-1 売上高及び営業利益等比較

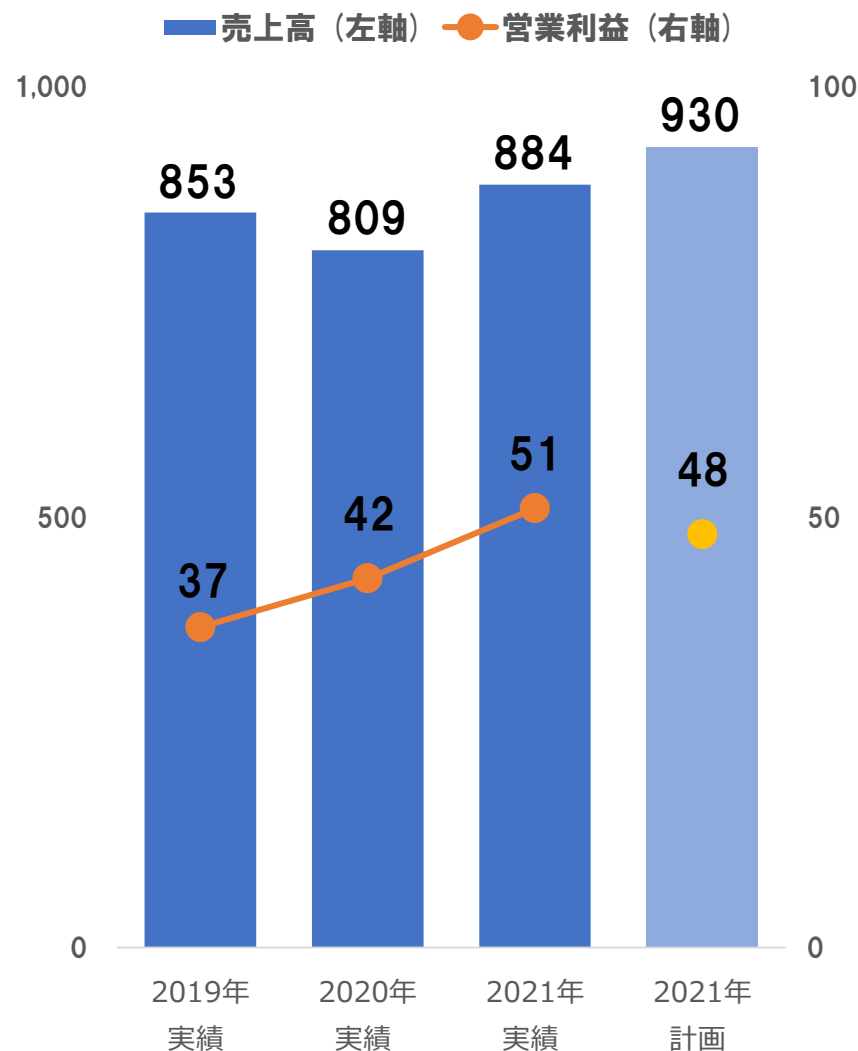
	2021年計画	2021年実績
売上高	930億円	884億円
営業利益	48億円	51億円
ROE	-	6.7%
償却前 経常利益	100億円	100億円

計画差異：外部環境の激変

- 新型コロナウイルス感染症による影響
⇒ 景気の急減速、ロックダウン、サプライチェーン混乱
⇒ 半導体不足による供給制限
- 脱プラスチックによる需要減少
- 原材料、資源価格の急騰が2021年半ばから大きく影響

売上高・利益比較

(単位：億円)



※2021年計画は、2019年2月12日に公表しました第六次中期経営計画値です。

夢がある。技術がある。未来ができる。

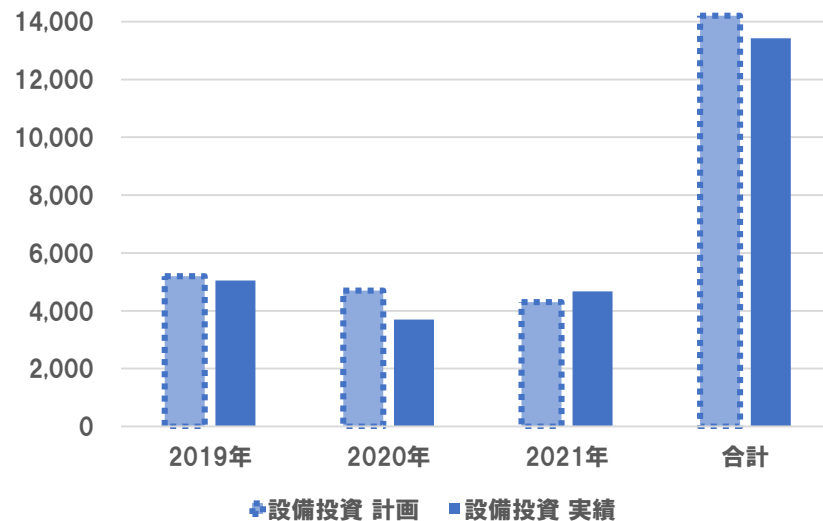
04-1 設備投資比較及び有利子負債、現金等推移

(単位:百万円)

		2019年	2020年	2021年	合計
設備投資	計画	5,200	4,800	4,500	14,500
	実績	5,051	3,698	4,673	13,423
有利子負債		9,116	6,445	4,117	—
現金同等物		7,605	9,179	9,765	—

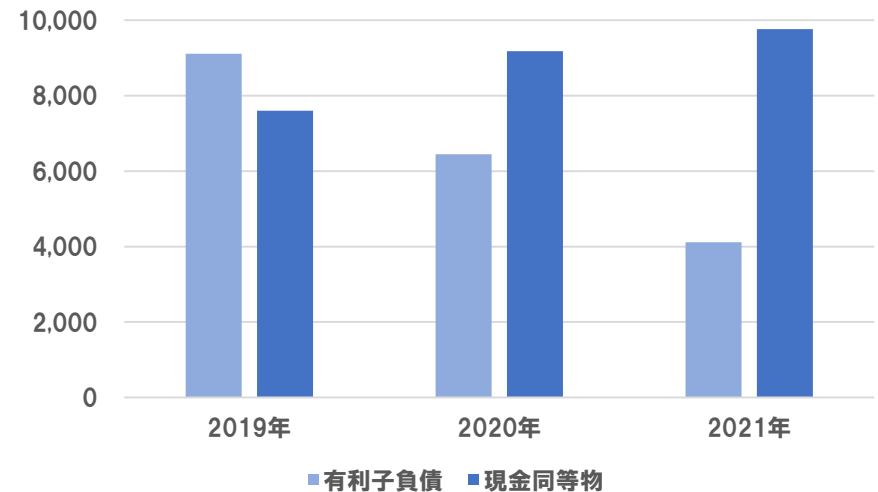
設備投資

(単位:百万円)



有利子負債・現金同等物

(単位:百万円)



有利子負債 ■ 現金同等物

夢がある。技術がある。未来ができる。

04-2 中期経営計画(2024)の位置づけ

【経営ビジョン】Next10(2030)

要素技術を通じて、新たな価値を創造し、
お客様から選ばれるソリューションパートナー

中期経営計画(2024)の位置づけ

グループビジョン実現へ向けた第2ステージ

【事業ポートフォリオの高度化】

Stage 1

Stage 2 【土台作り&基盤強化】

Stage 3

【基本方針】

1. 既存事業の質的向上⇒収益力強化
2. 戦略・成長投資の拡大
3. サステナビリティ・ESG推進

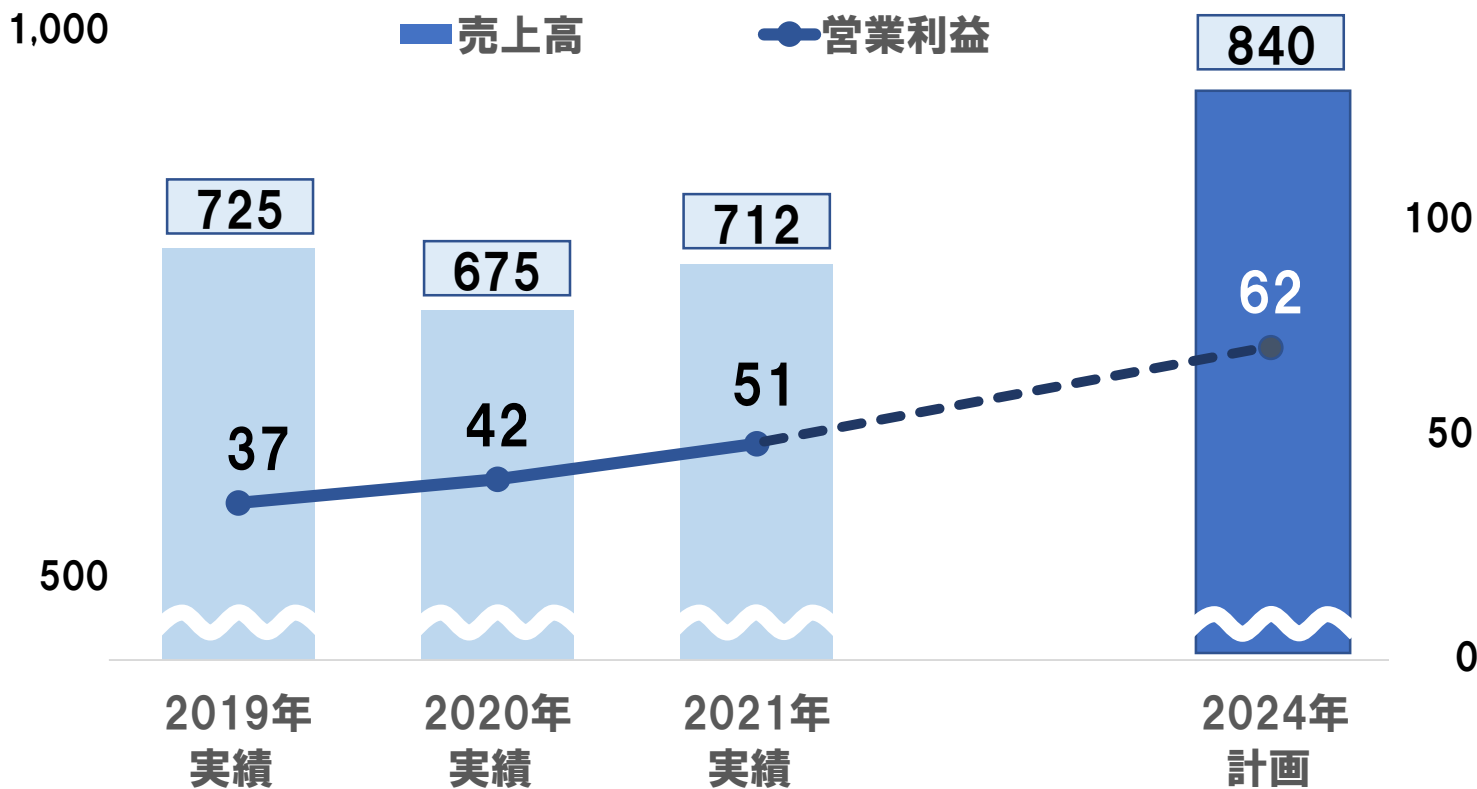
04-2 注力領域における当社の強み

	合成	新規	建材	強み	売上高 (2024)
<p>生活サポート</p> <p>人々の安心で快適な生活を支える事業</p> <p>ライフサイエンス 食品・飲料 住環境 生活用品 アグリカルチャー</p>	●	●	●	多種多様な分野での顧客とのネットワーク	590億円
<p>情報電子</p> <p>情報通信に関する事業</p> <p>情報電子</p>		●		光学フィルム加工メーカーのフロントランナー	150億円
<p>プロセス機能材料</p> <p>製品製造に役立つ部材で貢献する事業</p> <p>プロセス機能材料</p>	●	●		商品開発力・成型技術のノウハウ蓄積	70億円
<p>環境・エネルギー</p> <p>環境・エネルギー負荷を軽減する事業</p> <p>環境エネルギー</p>	●	●	●	ユーザー・商社・流通とシステム連携	12億円

04-2 売上高・営業利益計画

(単位:億円)

(単位:億円)



中期経営計画 (2019-2022)

中期経営計画 (2022-2024)

※ 2019~2021年売上高実績は収益認識に関する会計基準を適用した場合の数値です。

04-2 セグメント別 売上高・営業利益

(単位:百万円、%)

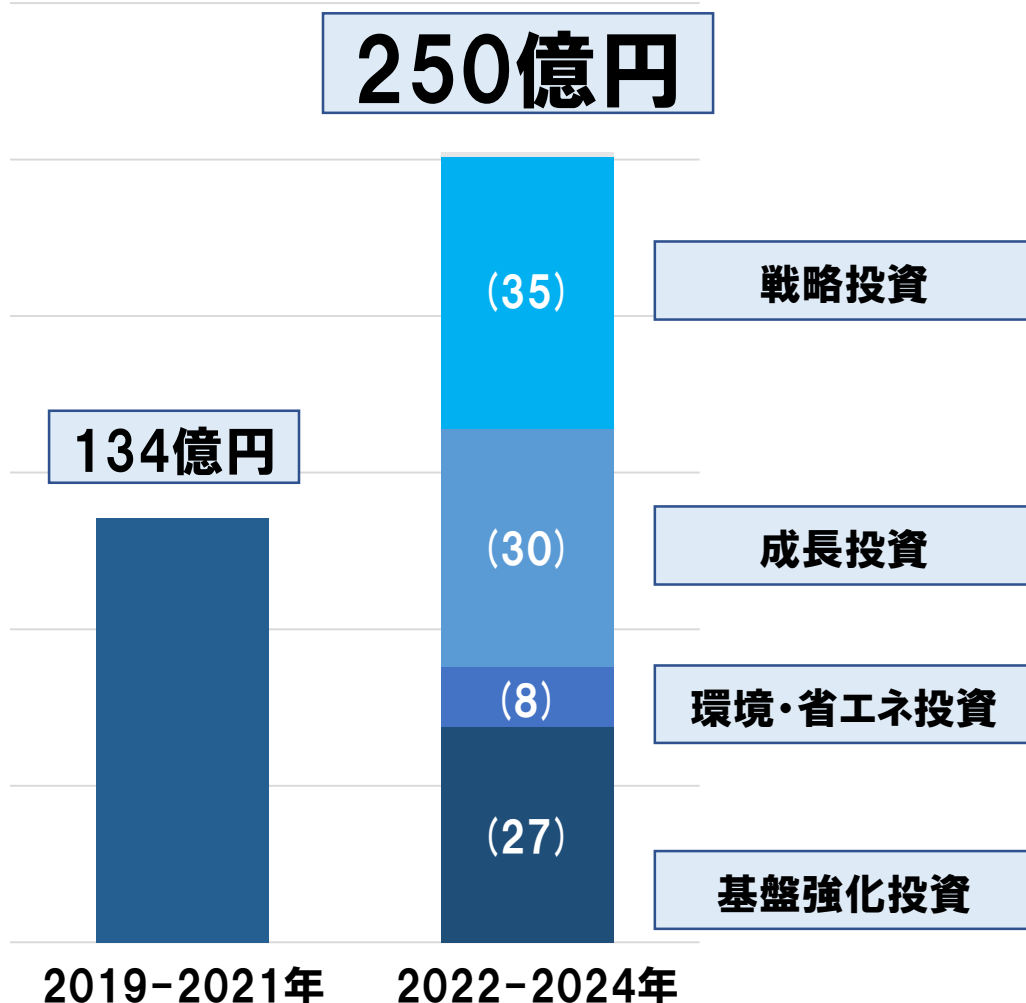
売上高	2021年実績	2024年計画	増減額	増減率
合成樹脂事業	47,785	53,000	5,214	10.9
新規材料事業	11,813	15,500	3,686	31.2
建材事業	10,512	13,000	2,487	23.7
その他の事業	1,158	2,500	1,341	115.9
連結合計	71,270	84,000	12,729	17.9

(単位:百万円、%)

営業利益	2021年実績	2024年計画	利益率	増減額	増減率
合成樹脂事業	4,267	5,000	9.4	732	17.2
新規材料事業	2,373	2,400	15.5	26	1.1
建材事業	591	800	6.2	208	35.4
その他の事業	166	400	16.0	233	141.0
全社	△2,276	△2,400	-	△123	-
連結合計	5,123	6,200	7.4	1,076	21.0

※ 2021年売上高は収益認識に関する会計基準を適用した場合の数値です。

※ 2021年売上高及び営業利益は(株)オークハウス、(株)オーククラブカットシステムをその他関連事業から建材事業セグメントに変更した数値です。



戦略投資 (M&A含む)

- 海外製造拠点建設
- 高機能フィルム製造設備導入
- 環境事業投資

成長投資、環境・省エネ投資

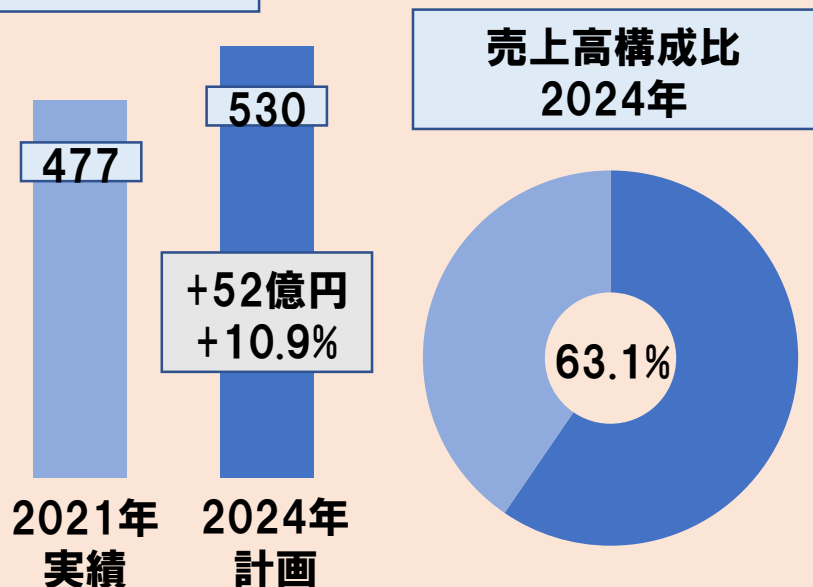
- 大型用光学フィルム生産能力増強
- 環境貢献フィルム製造設備増強
- CO2削減推進

04-2 合成樹脂事業セグメント

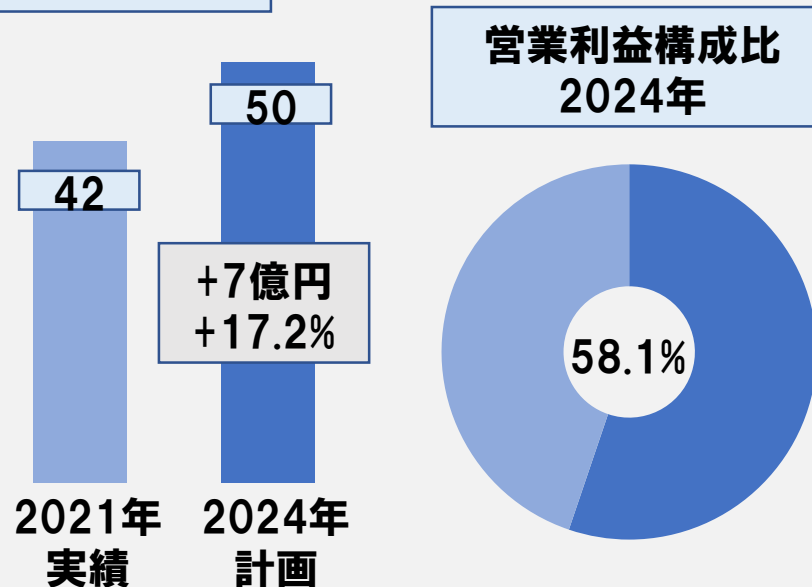
重点施策

- ・地球環境に貢献する製品開発、拡大
- ・社会貢献出来る機能製品開発
- ・実現に必要な川下サービス機能強化

売上高



営業利益



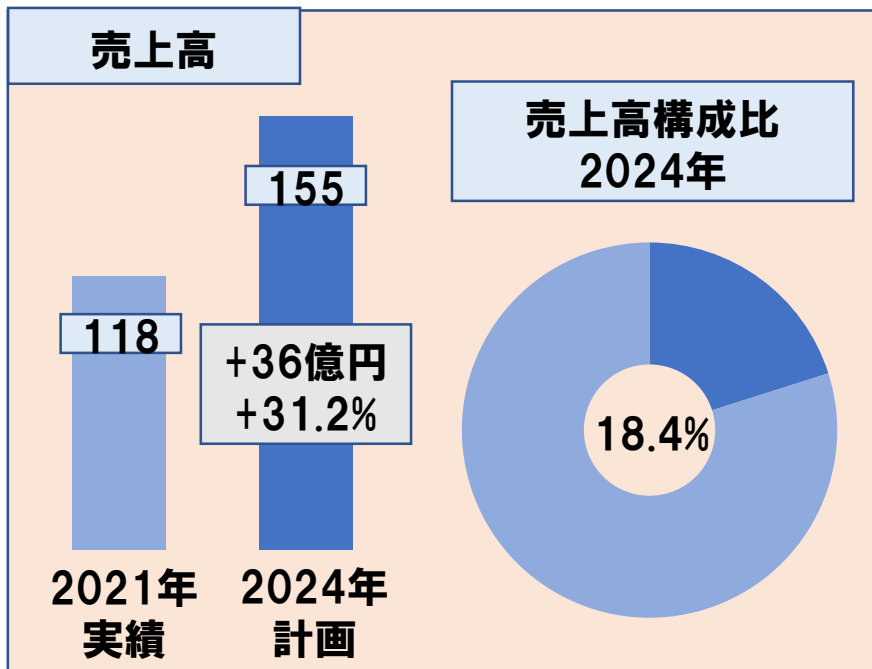
※ 2021年売上高は収益認識に関する会計基準を適用した場合の数値です。

04-2 新規材料事業セグメント

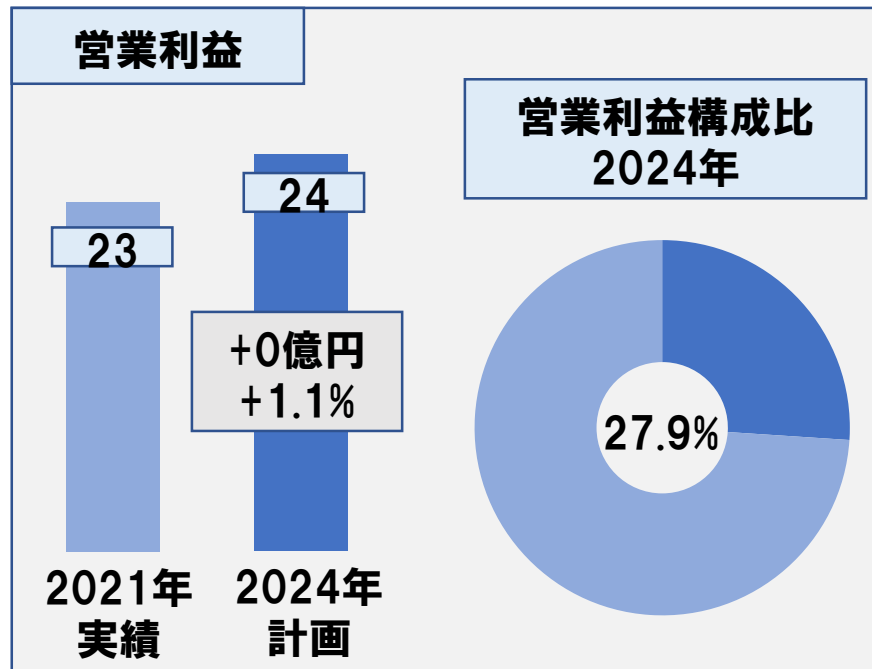
重点施策

- ・大型用光学フィルムの拡販
- ・車載、ハイエンドディスプレイ分野の事業拡大
- ・海外展開(市場開拓・拠点設立)

売上高



営業利益



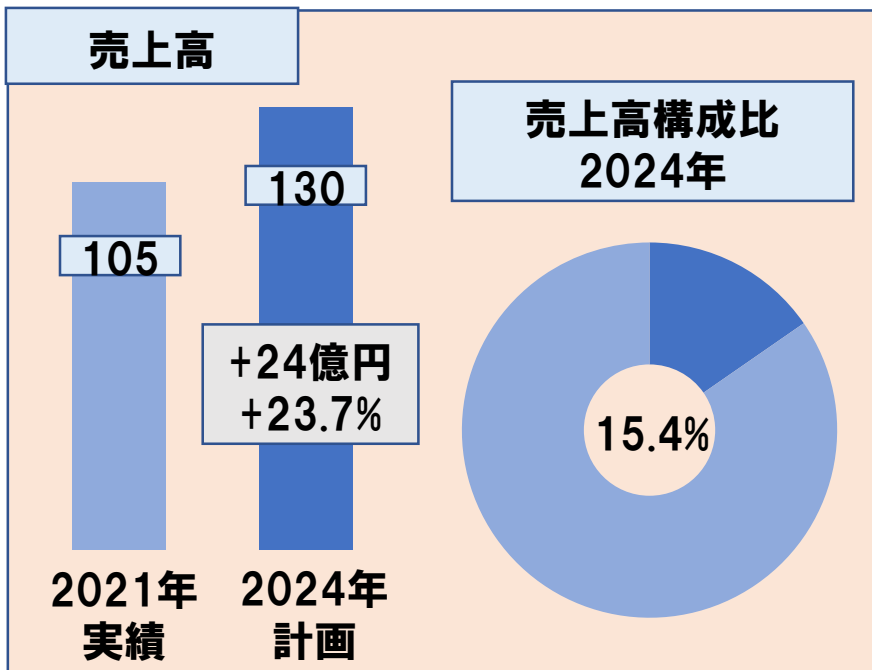
※ 2021年売上高は収益認識に関する会計基準を適用した場合の数値です。

04-2 建材事業セグメント

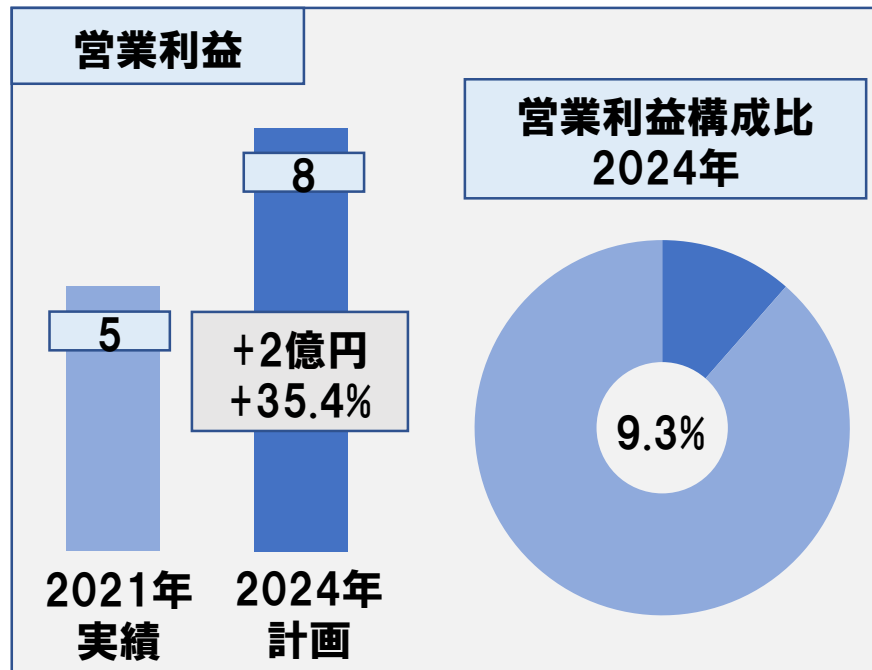
重点施策

- PB製品のフル生産フル販売による売上高増
- PB製品以外で環境負荷低減、SDGsに寄与する製品を拡大
- 新事業領域を指向した新基材・新製品の開発

売上高



営業利益



※ 2021年売上高は収益認識に関する会計基準を適用した場合の数値です。

※ 2021年売上高及び営業利益は(株)オークラハウス、(株)オークラプレカットシステムを含む数値です。

外部環境

気候変動への対応
脱炭素
廃プラスチック
サーキュラエコノミー

ターゲット領域

環境・エネルギー

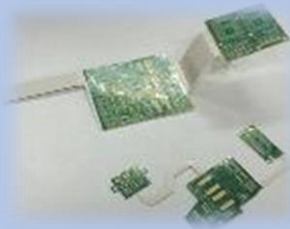


提供価値

- ◆ マテリアルリサイクル
(ポリマーブレンド・アロイ技術)
- ◆ ケミカルリサイクル
- ◆ モノマテリアル
- ◆ バイオプラスチック
- ◆ 断熱・遮熱材料

高度情報化の進展
AI・IoT
DX加速
自動化・省力化

情報電子



- ◆ 5G材料
- ◆ 高機能ディスプレイ材料
- ◆ センサー材料
- ◆ プロセス機能材料

世界人口の増加
長寿社会
感染症対応

ライフサイエンス



- ◆ 医療用機能材料
- ◆ 細胞培養プロセス材料
- ◆ ヘルスケア原料
(植物加工技術)

■ 売上高 840億円

■ 営業利益 62億円

■ ROE 8%

04-2 サステナビリティ推進

理念体系



サステナビリティ基本方針

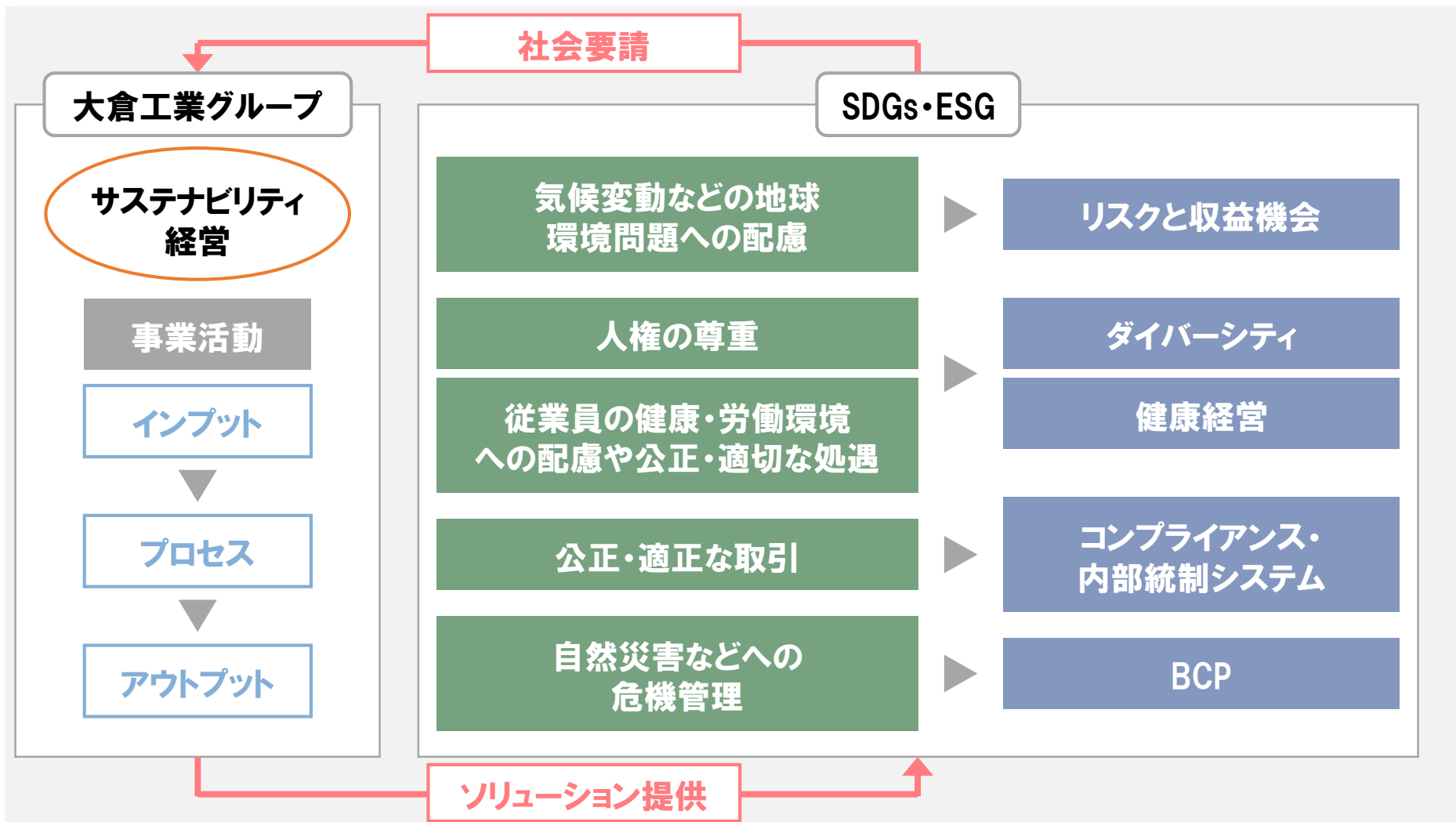
「社会から信頼される企業」であり続けるために、事業を通じて、社会との共生を念頭に企業の成長を目指す

サステナビリティ基本原則

1. 事業とESGの両立
2. 地球環境の保全
3. 法令順守・人権尊重と労働環境の配慮
4. 情報開示と対話

04-2 サステナビリティ推進

大倉工業グループのサステナビリティへの取り組み



04-2 サステナビリティ推進

Environment : 環境



脱炭素経営(気候変動対策)の推進

- 省エネ設備の導入
- 太陽光発電の導入
- 本社・各事業所での太陽光発電導入検討



資源循環対策の更なる推進

- 資源循環プロジェクト発足

環境貢献製品の創出と拡大

(代表例)



エコラップ



オークラボード



無溶剤型
アクリル系接着剤



「気候関連財務情報開示タスクフォース(TCFD)」
提言に沿った積極的な情報開示

2024

CO₂排出量:30以上削減
 市場回収廃プラリサイクル製品売上:10億円以上
 生活サポート群環境貢献製品売上高比率:50以上

Social : 社会



働きがいのある職場環境の整備

- 女性活躍職場の推進
- 人事評価制度の再構築
- 健康経営の推進

地域社会との共生

- 社会奉仕活動の拡大
- 地域文化/スポーツイベントへの参画



DX推進による競争優位性の確保

- 新しいデジタル技術の導入による生産性向上と業務改革
- より高品質で安全性の高い製品の追求

2024

女性役職者・管理職比率の向上
 健康経営優良法人認定の取得
 積極的な社会貢献活動への参画
 ホワイテカラー・製造現場の業務工数削減
 IT・AI技術による品質検査強化

Governance : ガバナンス



企業の信頼性・透明性の向上

- 「コーポレートガバナンスの強化」
- 取締役会等の多様化と実効性の開示
- 内部統制・コンプライアンス体制の整備

「リスクマネジメントの強化」

- BCP(大規模な自然災害対応)のブラッシュアップ
- 情報セキュリティの強化

2024

サステナビリティ報告書、ESG情報開示の推進
 コンプライアンス違反、行政処分件数:0件維持
 危機管理手順の見直し、ブラッシュアップ

04-2 事業を通じた環境貢献への取り組み

Bioplastic

バイオプラスチックなど地球環境保全に貢献する製品の拡充

バイオプラスチックフィルム(バイオマスプラスチック、生分解性プラスチック)により地球環境保全に貢献



エコローム® こかげ



エコローム® FC



ビオナチュレ®



OKバイオ®



ラブラーバイオ®

夢がある。技術がある。未来ができる。

04-2 事業を通じた環境貢献への取り組み

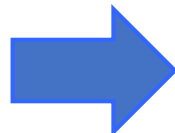
Reduce

容器包装におけるプラスチック使用量の削減により 廃棄物の排出抑制

ボトル容器からのプラスチック減量化 ボトル⇒パウチ▲50%



詰替用
スパウト付き製品



減容ボトルからのプラスチック減量化 減容ボトル⇒パウチ▲25%



バッグインボックス
(本体とケースが容易に分離可能)



04-2 事業を通じた環境貢献への取り組み

Recycle 高度化リサイクルによるリサイクルペレットを使用した製品の提供



04-2 事業を通じた環境貢献への取り組み

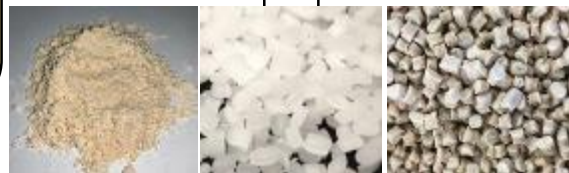
Recycle

ウッドプラスチックの開発と上市

木質材料

建築解体廃木材
端材、暫材、鋸屑など
杉、桧、松その他

破砕・粉砕
混合



プラスチック材料

家電、容器包装、産業廃棄物
リサイクルプラスチック
熱可塑性プラスチック

木材・プラスチック複合材(WPC)

木材・プラスチック再生複合材(WPRC)



高い環境性能

(廃棄物を主原料とし、省資源化、廃棄物の削減)

木質資源循環

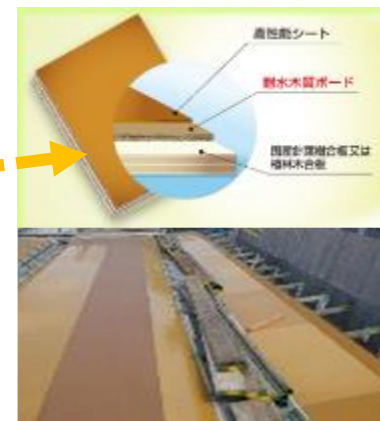
木質材料、木材を活用した資源循環製品の拡大



ボード事業



環境資材事業



住宅部材事業



建築・土地造成事業



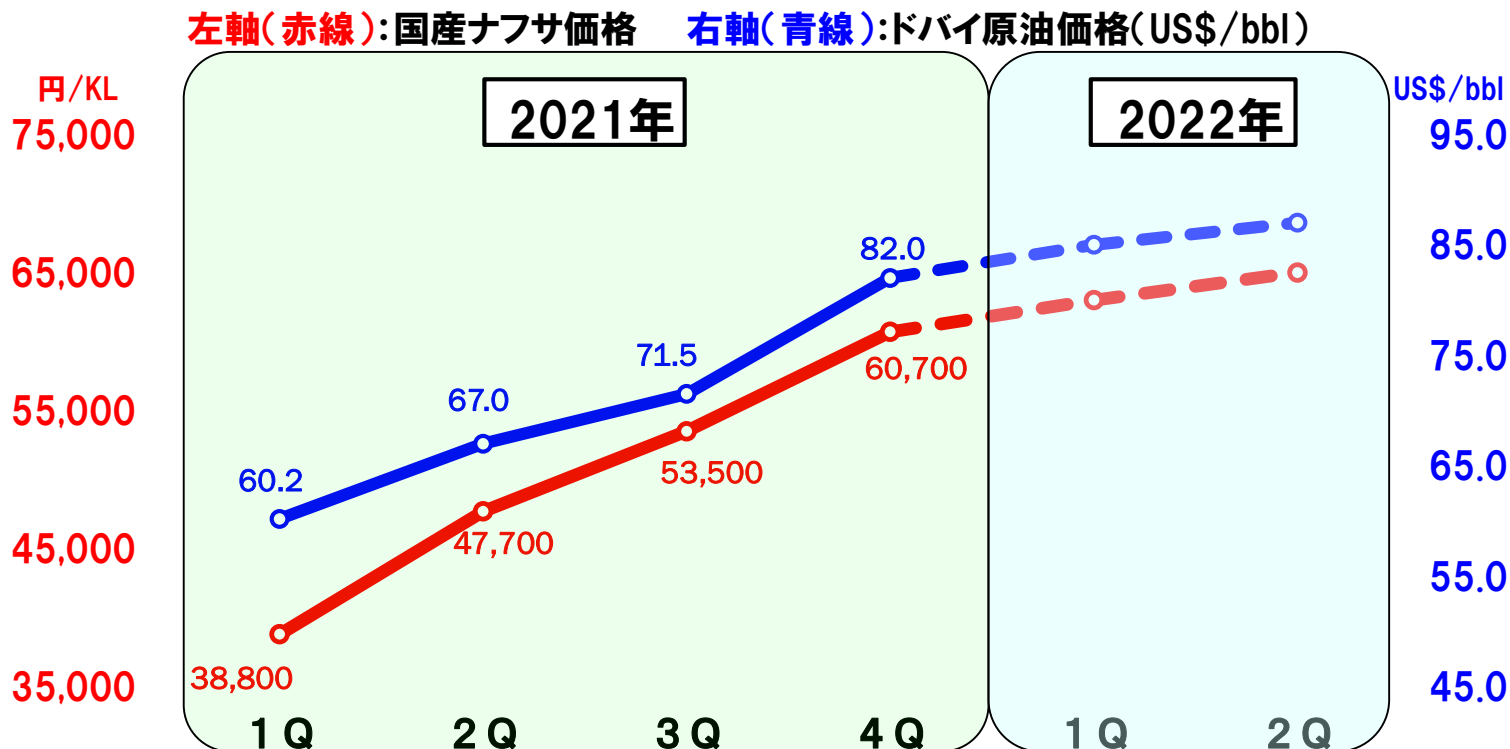
木材加工事業



2022年12月期 業績予想

5

05-1 2022年 市場、市況の想定



国産ナフサ価格、ドバイ原油価格の推移

▶ 原油・ナフサ価格は上昇

国産ナフサ価格は2021年4Qに6万円/KLを超え、更なる上昇が懸念される。

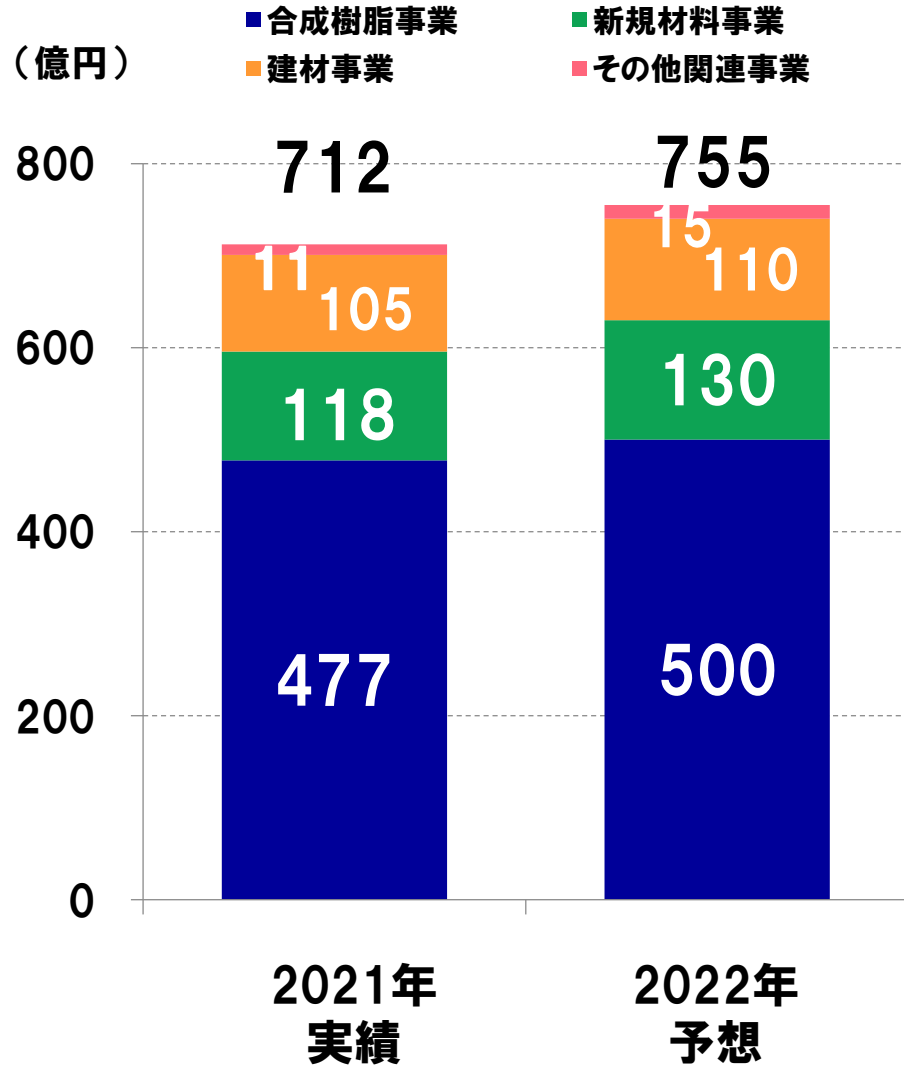
▶ 当社関連市場

- ①地政学リスクも加わり資源価格の高騰により原材料価格は更なる上昇が懸念される。
- ②半導体不足の影響を受け、自動車及び電子機器関連の回復は不透明。
- ③テレビ向け光学材料は、画面の大型化により引き続き好調に推移。
- ④脱炭素、省資源など環境対応の高まりにより環境負荷低減に寄与する製品の需要が増加。

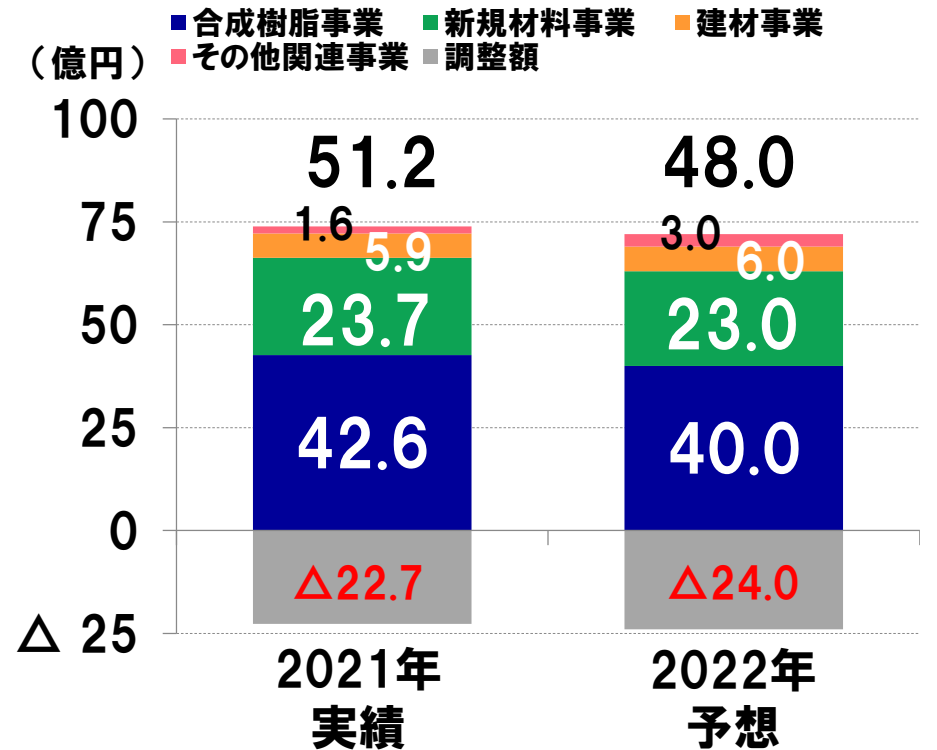
05-1 業績予想 セグメント別売上高、営業利益



【売上高】



【営業利益】

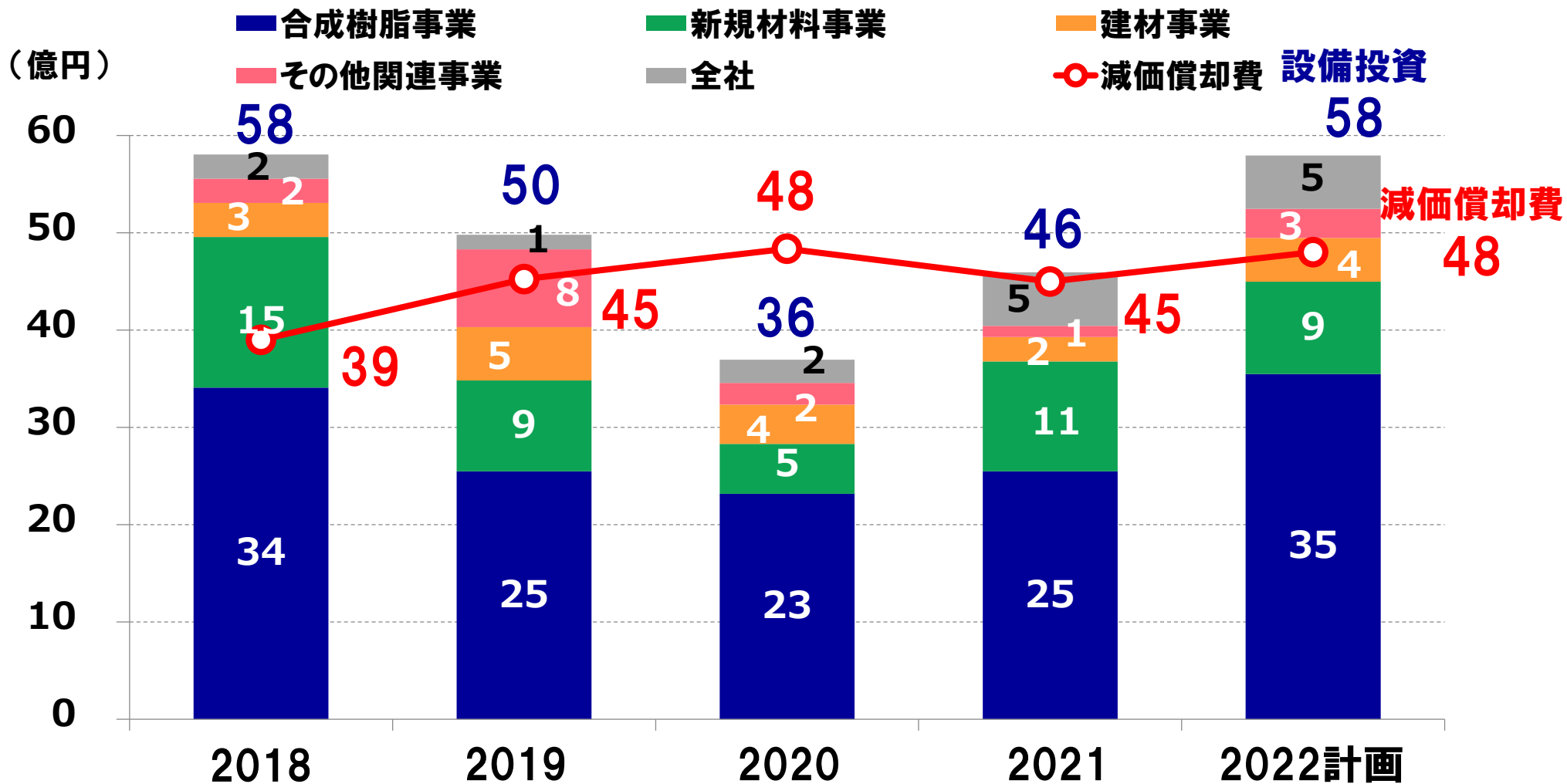


	2021年実績	2022年予想	前年比
経常利益	55.3	51.0	△7.8%
親会社株主に帰属する当期純利益	34.1	35.0	+2.4%

※2021年実績は「収益認識に関する会計基準」を適用し、住宅事業、木材加工事業の業績を「その他関連事業」から「建材事業」に変更した場合の数値です。

夢がある。技術がある。未来ができる。

05-1 設備投資(工事ベース)及び減価償却費



※2021年まで「その他関連事業」に集約していた住宅事業、木材加工事業の投資金額を2022年計画より「建材事業」に含めております。

05-1 2022年業績予想 セグメント別



(億円)

	2021年 実績	2022年 予想	前年比
売上高	712.7	755.0	+5.9%
合成樹脂	477.8	500.0	+4.6%
新規材料	118.1	130.0	+10.0%
建 材	105.1	110.0	+4.6%
その他関連	11.5	15.0	+29.5%
営業利益	51.2	48.0	△6.3%
合成樹脂	42.6	40.0	△6.3%
新規材料	23.7	23.0	△3.1%
建 材	5.9	6.0	+1.4%
その他関連	1.6	3.0	+79.8%
全 社	△22.7	△24.0	-

(億円)

	2021年 実績	2022年 計 画	前年比
設備投資	46.7	58.0	+24.1%
合成樹脂	25.6	35.5	+38.6%
新規材料	11.3	9.5	△16.0%
建 材	2.9	4.5	+52.2%
その他関連	1.0	3.0	+175.8%
全 社	5.7	5.5	△4.6%
減価償却費	45.0	48.0	+6.6%
合成樹脂	24.6	25.5	+3.4%
新規材料	10.7	11.5	+6.8%
建 材	4.5	4.5	△0.5%
その他関連	2.9	2.5	△13.8%
全 社	2.1	4.0	+83.7%

※2021年実績は「収益認識に関する会計基準」を適用し、住宅事業、木材加工事業の業績を「その他関連事業」から「建材事業」に変更した場合の数値です。

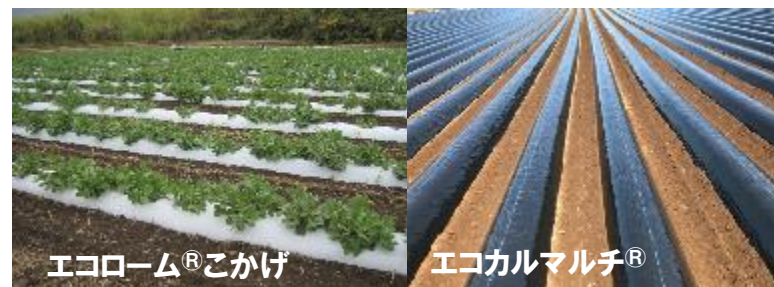
2022年の課題

- 原材料価格高騰に即応した製造コスト削減と製品価格改定
- 環境に貢献する製品の拡大
- 社会貢献に繋がる伸長分野での機能製品の拡大

環境対応型製品拡販

▶ 農業用生分解性マルチフィルム「エコローム®こかげ」

マルチフィルムを微生物が分解するため、
収穫後のフィルム回収が不要。
乳白色層で赤外線を反射し、地温上昇を抑制。



▶ リサイクルマルチフィルム「エコカルマルチ®」

農園芸用プラスチックを一部再利用したマルチフィルム。



▶ バイオマスシュリンクフィルム「ラプラー®バイオ」

バイオマスマークを取得(バイオマス度25%以上)
採用先の拡大を実施。

▶ バイオマスポリエチレンフィルム 「OKバイオ®、ピオナチュレ®」

CO₂の削減、化石資源の節約。



2022年の課題

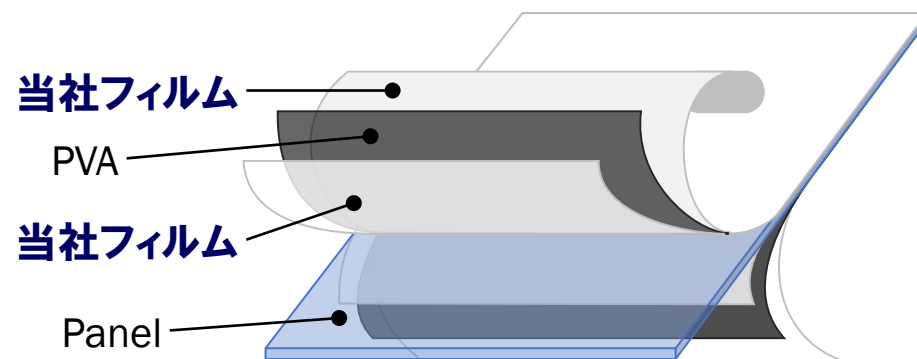
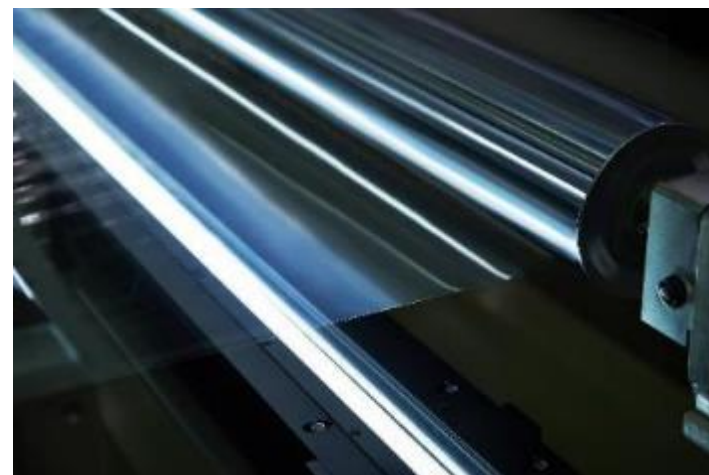
- 大型液晶パネル向けアクリルフィルムの供給量拡大、増産投資
- 車載向け 新規機能性フィルム需要への対応

▶ **光学用アクリルフィルム製造装置
生産能力増強のための改造**
総投資額 6.4億円
改造は終了、今期より安定量産化

▶ **車載向け機能性フィルムの新案件獲得**

▶ **溶接代替(接着剤)分野への拡大**

▶ **光学用アクリルフィルム新工場建設**
新たな一貫製造装置増設
投資総額 約60億円
生産能力 現行の約2倍
(2023年12月量産開始予定)



2022年の課題

- 建材関連事業の一体化
- 建装材事業の「住環境事業」への転換

▶ 環境貢献型枠「木守」の本格事業化

▶ 「省施工パネル」の拡大

▶ パーティクルボード製品
生産体制の最適化により、
利益の最大化を図る

▶ (株)オークラハウス
新エリアへの商圈拡大

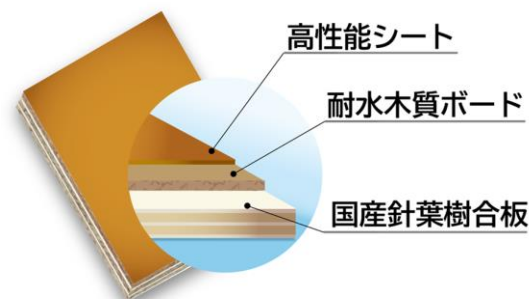
▶ (株)オークラプレカットシステム
利益率を重視した販売施策、
非住宅物件の拡販

▶ 国産材の木材カスケード活用による
事業機会探索



【特長】

1. FSC認証の耐水木質ボードを利用
2. NETIS(新技術登録制度)登録 等



環境貢献型枠「木守」
2022年下期に月産100,000枚の量産体制を構築

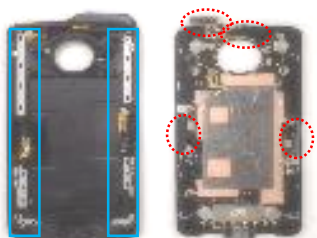
夢がある。技術がある。未来ができる。

情報電子

第5世代移动通信システム(5G)向け
高周波基板用フィルム



高周波低損失基板用フィルム
(当社開発品)



5Gスマートフォン

伝送損失が低く(低誘電率・低誘電正接)
耐熱性・寸法安定性に優れたフィルムを開発。
今期中に上市予定。

ライフサイエンス

バイオ医薬品、ワクチン培養用
シングルユースバック

【特長】
200Lシングルユースバックはバック底
部にドラム缶直径と同寸の棒を配置
することで2D形状でも3D形状と同様
に内容物を充填できる。



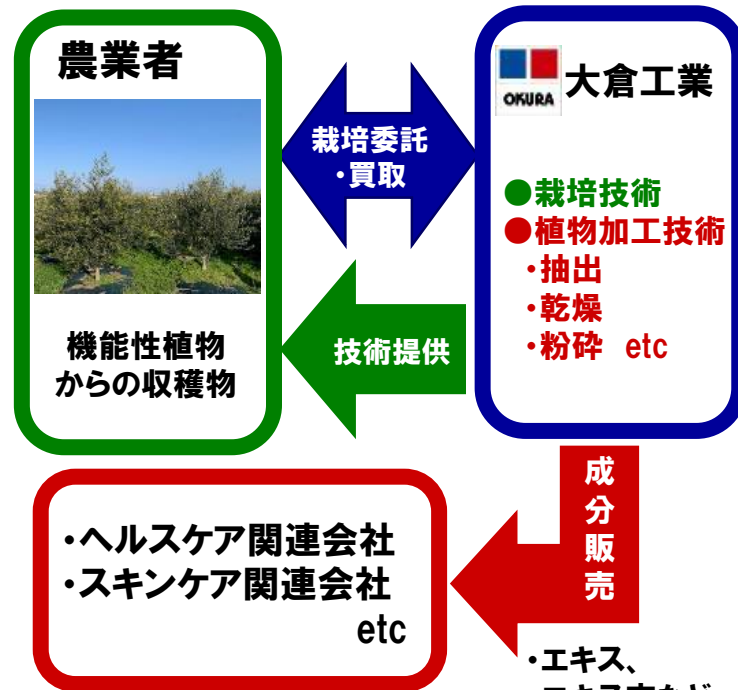
当社開発品200L用



お客様のニーズに応えるべく、
今期中に量産設備導入を進める。

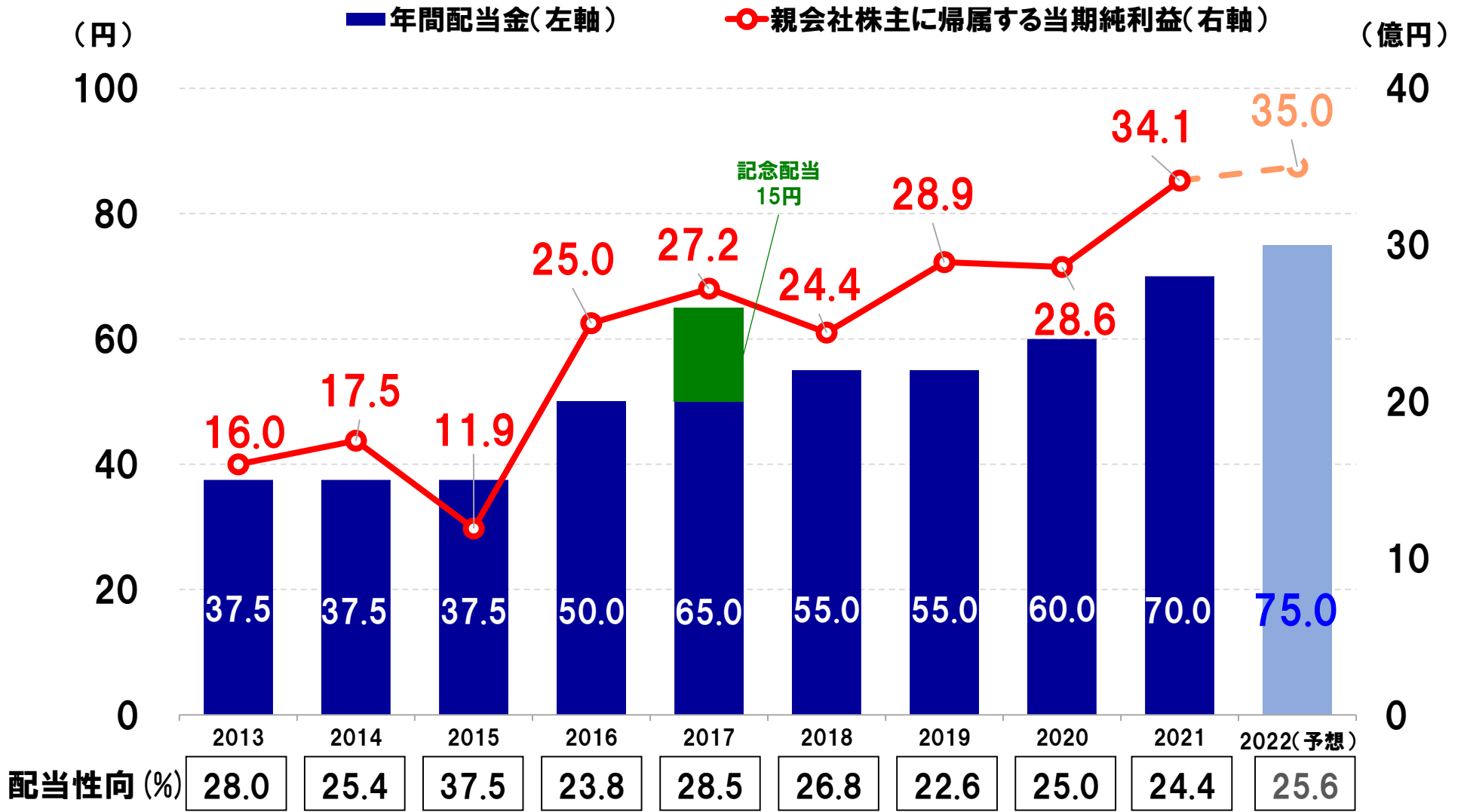
ライフサイエンス

植物加工技術を活用したヘルスケア、
スキンケア用原料の開発



LEDパルス光利用による各植物の
機能性成分含有量増加効果を検証





2022年期末配当金は、一株当たり75円に増配。

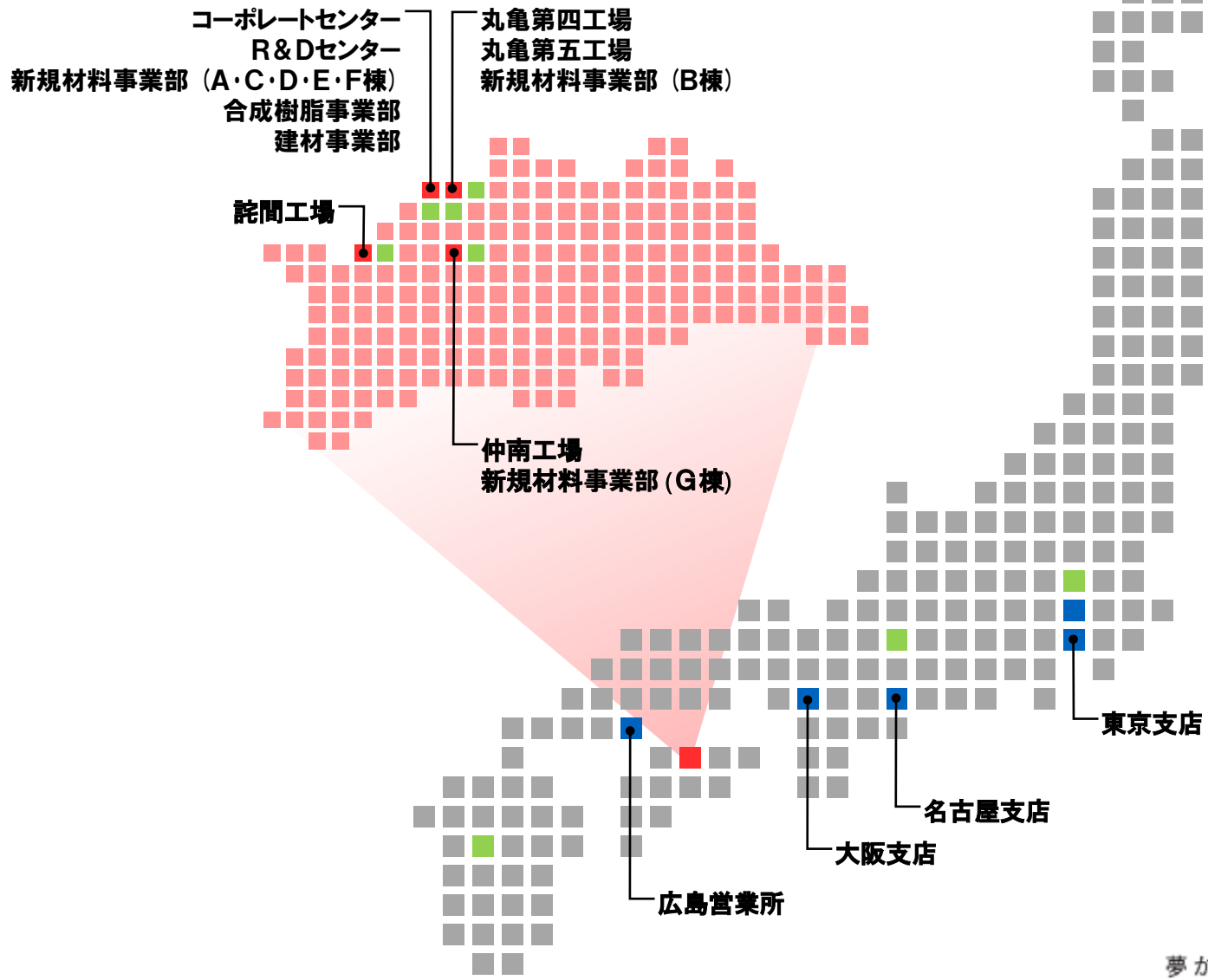
ご清聴ありがとうございました

参考資料

6

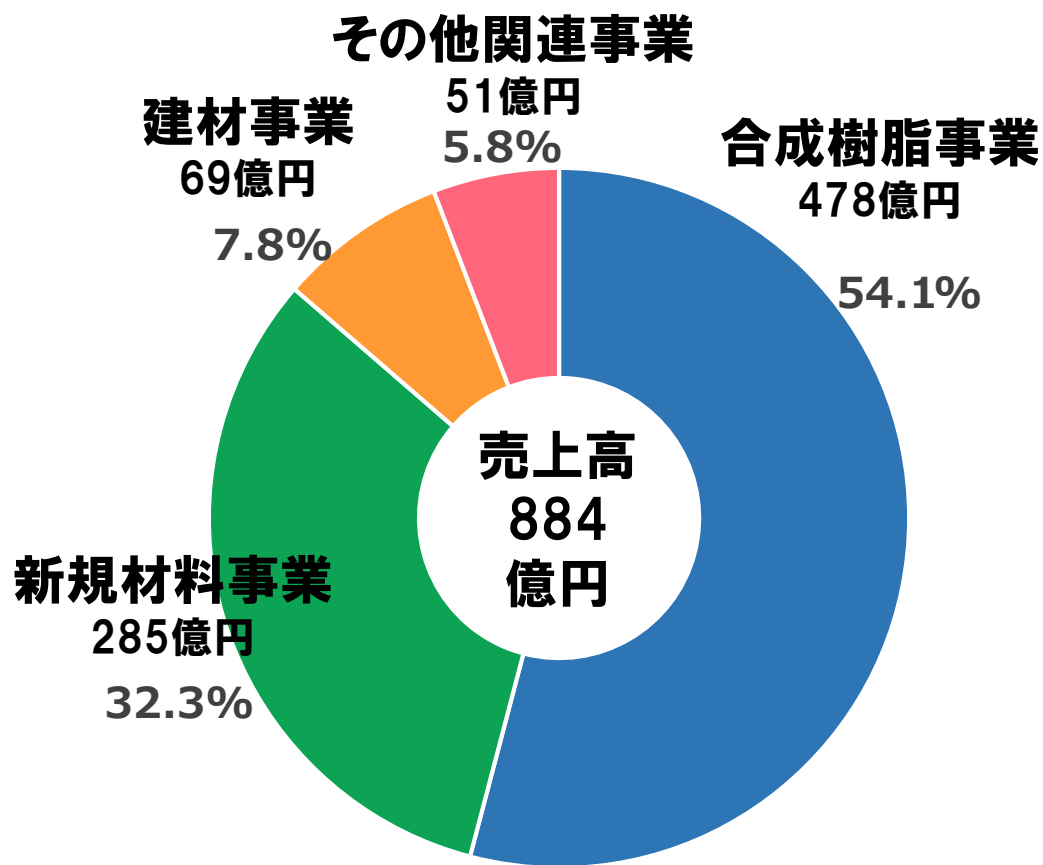


06-1 当社の事業所とグループ会社

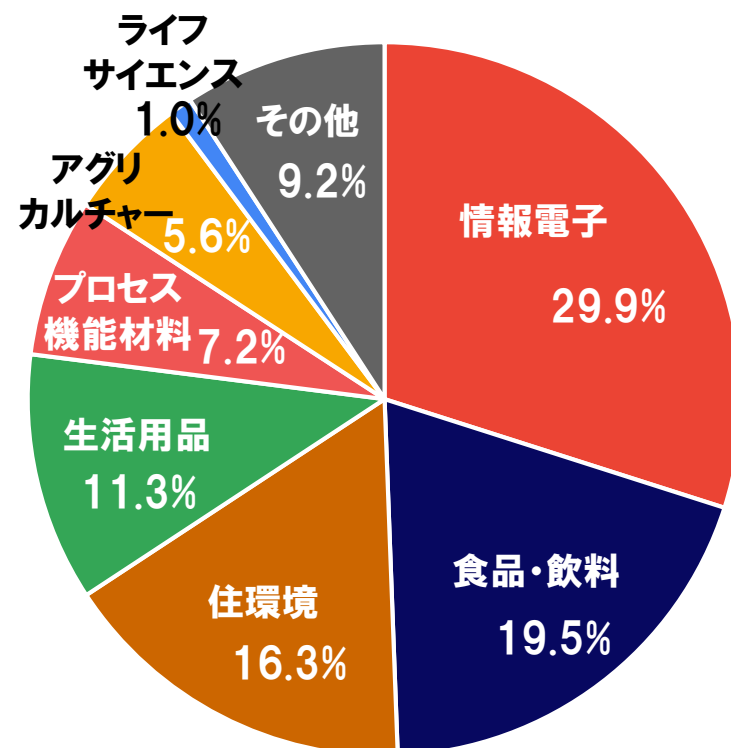


- グループ会社**
- (株)KSオークラ(滋賀県)
 - (株)九州オークラ(熊本県)
 - (株)埼玉オークラ(埼玉県)
 - (株)オークラプロダクツ
 - オークラホテル(株)
 - (株)オークラプレカットシステム
 - オークラ情報システム(株)
 - (株)オークラハウス
 - (株)ユニオン・グラビア
 - (株)オークラパック香川
 - (株)カントウ(埼玉県)
 - 無錫大倉包装材料有限公司(中国)
 - 尤妮佳包装材料(天津)有限公司(中国)
 - 大倉産業(株)
 - オー・エル・エス(有)
 - 大友化成(株)
 - 大宝(株)
 - 中讃ケーブルビジョン(株)
- ※(香川県)所在地省略

【2022年1月末現在】



事業セグメント別売上高比率
(2021年)



業界別売上高比率
(2021年)

合成樹脂事業

ライフ&パッケージBU

シュリンクフィルム

中間物流用の重量物包装や集積包装、食品を直接包装するものなど、オリジナルのデザインや形状を生かしたまま、商品をより美しく安全に包み込む。用途に応じた独自の機能を付与すると共に、印刷などの二次加工や包装システムなどを提案。

軟包材

ナイロン・ポリエステル・ポリエチレンなどのさまざまなフィルムを貼り合わせることにより、それぞれの特性を活かした機能的な複合フィルムのこと。冷凍食品の包装やIC基盤の保護用フィルム、詰め替え用のスパウト付きラミネート袋など、身近なところから最先端の電子材料にまで幅広く提供。

リキッドパック

液体包装容器の総称であり、段ボール箱内で使用されるバッグインボックスとドラム缶内で使用されるバッグインドラムに大別される。醤油などの食料品や化学薬品などの液体輸送の合理化に寄与。

【用途例】

乳酸菌飲料集積用、カップ麺、酒パック等の包装フィルム、食品トレイ包装用バリアフィルム



【用途例】

食品、洗剤、柔軟剤、シャンプー、ペットフード、お菓子等



【用途例】

ミネラルウォーター、油脂加工製品、調味液(醤油、ソース等)、液体肥料、液体洗剤、接着剤



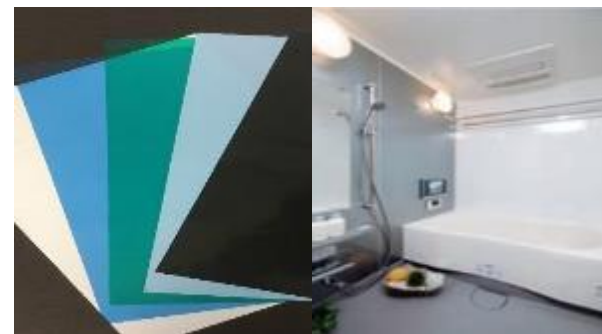
合成樹脂事業

プロセスマテリアルBU

電子・エネルギー・住宅・メディカルなど様々な分野の主材や基材を提供。液晶パネルに使用される位相差フィルムの保護用フィルムなど、独自の樹脂ブレンドノウハウ・高い製膜技術・徹底した品質管理で最適なソリューションを提供。

【用途例】

光学、電子、電気製品、自動車、ユニットバス壁面、ドア・クローゼット・床などの建装材など



ベーシックマテリアルBU

規格袋・ごみ袋・包装/梱包荷材など、各種既製品はもとより、食品・衛生材料・家庭紙・日用雑貨・産業資材・医薬・洗剤・化粧品・印刷出版物など幅広い分野で製品の包装に使われているポリエチレンフィルムを提供。

【用途例】

規格袋、日用品、食品用パッケージフィルム、衛生材料用フィルム



アグリマテリアルBU

農業用の機能性フィルムであり、全国の農家から親しまれている製品。農作業の省力化と作物の収穫増のために、保温・地温上昇抑制・害虫忌避・抗菌・生分解といったさまざまな機能を持つ製品をラインアップ。

【用途例】

農業用フィルム、肥料の保存



新規材料事業

機能材料BU

TPEチーム(ウレタンフィルム)

機械的・化学的・電氣的等著しい機能を持つウレタンやフッ素系等の単層、多層フィルムをメディカル分野や自動車部品メーカー等に提供。

【用途例】

創傷用被覆保護ドレッシング
プリント接着用シート
印刷転写用シート
ヘッドレスト
ペイントプロテクションフィルム



BLTチーム(シームレスベルト・樹脂被覆ローラ)

プリンター等の画像情報機器に必要な電子機能を持つベルトやチューブをプリンター・複写機メーカーに提供。

【製品種類】

LBP用中間転写ベルト
クリーニングローラ
転写ローラ

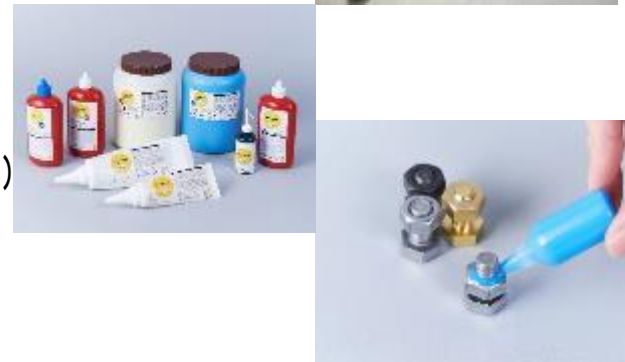


ADHチーム(アクリル接着剤)

3タイプの硬化機構の無溶剤型アクリル接着剤を車輛・電気・鋼板・鋳型模型からゴルフクラブまで幅広い市場に提供。

【用途例】

モーターマグネット(電気自動車部品)
塗装鋼板
ゴルフクラブ
鋳型模型

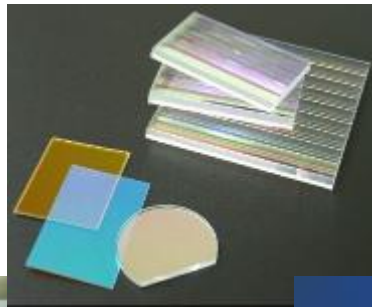
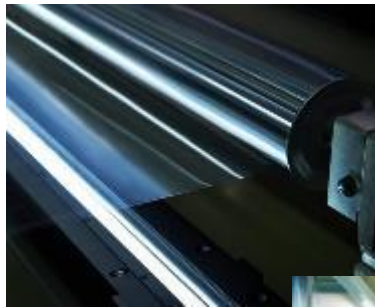


新規材料事業

電子材料BU(加工)、光学材料BU(製膜延伸)

MNTチーム、KEチーム、PLMチーム、CTチーム、MCSTRチーム

大型から中小型サイズの液晶ディスプレイを始め、タッチパネルや液晶プロジェクター等、電子表示体のキーマテリアルとなる各種光学機能性フィルムをFPDメーカー等に提供。



建材事業

パーティクルボード(素板)

木質廃材を細かくしたチップに接着剤などを混ぜた原料を高温でプレスし固めたパーティクルボード。

木質廃材を焼却せず製品としてリサイクルしており、二酸化炭素の排出を抑制し、地球温暖化の防止に寄与。

【用途例】キッチン、家具、フロア、構造用耐力面材



住環境

当社のパーティクルボードなどにシートを貼った製品で、住設機器等の部材提供及び棚板、フロア等として住宅メーカー等に提供。

【用途例】フロア、棚板等のパーティクルボード二次加工品



株式会社オークラハウス

香川県丸亀市に本社があり、県内の新築、リフォームを手掛る。エネルギー収支ゼロを目指したゼロ・エネルギー住宅や国土交通省が定めた耐震性能最高等級「耐震等級3」相当で建てるなど、快適に安心して長く住んでもらう住宅を提供。



株式会社オークラプレカットシステム

香川県丸亀市に本社があり、木造建屋宅用構造材加工(プレカット加工)および木造建屋用資材(建築金物・基礎素材等)の仕入販売を行っている。よりよい家を作るために、数々の建築データを基に、安全に現場での作業を迅速に行えるプレカットされた木材を、日々つくり続けている。

その他関連事業

ホテル事業：オークラホテル株式会社

香川県丸亀市に本社があり、オークラホテル丸亀を営業。
オークラホテル丸亀は瀬戸内海を一望する最高のロケーションで
ビジネスや観光の拠点に便利な立地。



情報処理事業：オークラ情報システム株式会社



香川県丸亀市に本社があり、ソフトウェア開発やコンピュータシステムの運用、保守パッケージソフトの製造・販売、コンピュータ機器販売を手掛けている。ニーズを拾い上げ、形にするまでトータルでサポート。

材料設計開発

ポリマーブレンドアロイ
有機無機ハイブリッド
重合、多層化

加工技術

製膜、延伸、塗工、印刷、
貼合、加圧、抽出、+ α



用途・形態・使用条件にマッチした材料と
製造プロセスでお客様のご要求に対応

さまざまな分野・業界への 製品対応力

様々な業界のお客様とのお取引により
多様化するニーズにマッチした製品を
高い技術力を生かし供給し続けています。



夢がある。技術がある。未来ができる。

創業の意義 【創業者 松田 正二】

高松、倉敷飛行機勤務時に終戦を迎え、80数名の従業員の生活を守ることと、戦後社会の復興と人々の役立つ為に事業を起こす

世の為 = 社会に役立つ
人の為 = 従業員を守り、人々に役立つ
復興に不可欠な住宅とその材料販売で創業



高松製材所の風景



木材市売の四国住宅の頃

1945	岡内製材所として製材・小型の復興住宅を販売
1947	四国住宅株式会社を設立 ⇒ 創立記念日
1949	高松(東浜町)にて木材市売りを開始
1951	四国実業株式会社に商号変更 倉敷ビニロンを発売
1952	丸亀(城西町)にて木材市売りを開始
1955	ポリエチレン加工に着目し製造装置を購入

国内に原料メーカーが無い中で、ポリエチレンフィルムの将来性に着目

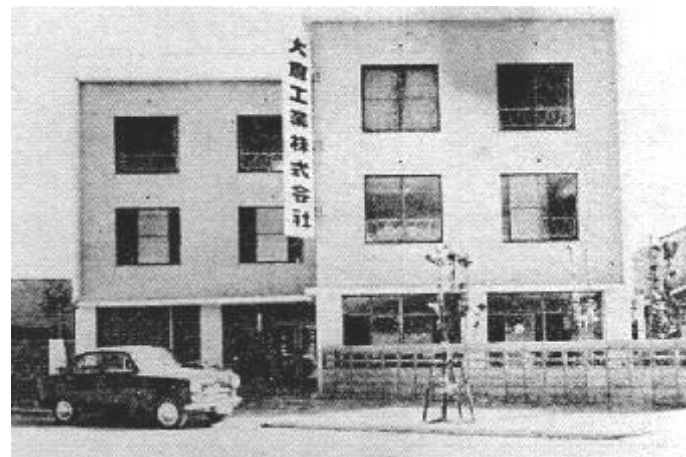
当該事業の開始を機に社名(商号)変更

長年勤務しお世話になった倉敷紡績と大原社長から一字ずつ戴く

倉敷紡績 社長

大原 総一郎氏

倉 敷紡績株式会社



高松本社ビル

1955 **【全体】大倉工業株式会社に商号変更**

1956 **【合成】ポリエチレンフィルム本格生産(港町)**

1959 **【合成】東京工場操業開始**
その後、大阪工場、福岡工場を立て続けに建設

1962 **【全体】大阪証券取引所第2部市場に株式上場**
【合成】本社工場操業開始
【建材】ラワン合板事業に進出

1964 **【合成】岡山工場、熊本工場、静岡工場を建設**
【建材】プリント合板製造開始

1967 **【合成】埼玉工場操業開始**



本社工場構内

1968	【建材】詫間工場操業開始、【他】冷凍倉庫事業開始
1970	【全体】東京・大阪両証券取引所第1部市場に株式上場
1971	【建材】パーティクルボード製造開始
1972	【全体】本社を香川県丸亀市に移転
1973	【他】四国初のマンション(大倉マンション)建設 「オークラホテル高松」をオープン
1977	【合成】丸亀第四工場操業開始
1987	新規材料事業部を新設
1988	【他】「オークラホテル丸亀」がオープン
1992	オークラ情報システム(株)設立 【合成】製版会社(株)ユニオングラフィア設立 丸亀第五工場操業開始
1995	中国に「無錫大倉包装材料有限公司」を設立 【合成】仲南工場操業開始
1996	【建材】詫間工場で爆発事故



オークラホテル丸亀



新規材料事業部(A棟)



液晶ディスプレイ用光学フィルムの事業拡大

2000	【新規】 光学フィルム工場C棟操業開始 偏光板事業「オー・エル・エス(有)」を設立
2001	【合成】 福岡・熊本の2工場を統合し九州工場操業開始
2004	【新規】 光学フィルム工場D棟操業開始 【合成】 「(株)九州オークラ」を設立
2006	【合成】 「(株)OKプロダクツ岡山」、 「(株)オークラプロダクツ香川」を設立
2007	R&Dセンターを新設 【合成】 「(株)関西オークラ」、「(株)関東オークラ」を設立
2009	【他】 「(株)オークラプレカットシステム」を設立



新規材料事業部(C棟)



新規材料事業部(D棟)

経営品質を高め、技術優位な企業へ
経営基盤を強化し、要素技術を進化させる

2012	【合成】「尤妮佳包装材料（天津）有限公司」を設立
2013	【建材】パーティクルボードJIS認証取り消し 第四次中期経営計画スタート JIS認定再取得
2014	【新規】仲南G棟操業開始 オー・エル・エス新ライン増設 【合成】関西オークラ新工場(第3工場)操業開始
2016	第五次中期経営計画スタート 監査等委員会設置会社に移行
2017	会社創立70周年
2018	代表取締役交代
2019	「(株)埼玉オークラ」を設立



新規材料事業部(仲南G棟)
10.5世代パネル対応の
最新工場



関西オークラ(第3工場)

本資料に関する注意事項

本資料に掲載されている業績予想・事業計画は、当社が現時点で入手可能な情報及び種々の前提に基づき作成したものであり、実際の業績等の結果は、今後生ずる様々な要因によって、予想・計画とは異なる場合がございます。

本資料は、情報提供のみを目的としたものであり、当社が発行する有価証券の売買を勧誘することを目的としたものではありません。

OKURA

2021年12月期 決算説明資料



大倉工業株式会社

2022年2月24日

END